スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

## 地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

# 北海道 厚真町


自 治 体 名 ： 北海道厚真町
担 当 課 名 ： 教育委員会生涯学習課
電 話 番 号 ： 0145-27-2495

# 1.自治体の基本情報

スポーツ庁

## 基本情報

| | |
|---|---|
| 面積 | 404.61 ㎢ |
| 人口 | 4,218 人<br>（令和７年１月時点） |
| 公立中学校数 | 2 校 |
| 公立中学校生徒数 | 114 人 |
| 部活動数 | 7 部活 |
| 市区町村の協議会・検討会議等の設置状況 | 設置済み |
| 市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況 | 策定に向けて準備中 |

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本町は、人口4,200人程度の小規模自治体であり、生徒数や部活動数が少ないことや、スポーツ少年団など部活動にはない種目の活動を行っている生徒も多く、年々中学部活動への入部生徒が減っている。

令和５年度において、一部の学校部活動顧問から「休日のみの地域移行では、地域指導者による生徒指導への不安があるため、完全地域移行しなければ教員の働き方改革にはつながらない」という意見があり、また、合同練習会に参加した地域の方からは、生徒の安全対策や指導回数への負担などがあり、現状で地域指導者になるのは難しいが、学校と地域指導者を繋ぐコーディネーターがいたほうが地域移行に進みやすいのではないかという意見があった。また、団体スポーツは広域で連携して取り組む必要があるため、早急に近隣自治体と情報共有し、広域連携について具体的な方向性を示す必要がある。

このことから、多様な生徒の放課後の居場所づくりの整備及び部活動の地域移行の担い手としての役割を担うことができる団体として、スポーツ系と文化系が混合した地域クラブの創設が必要である。

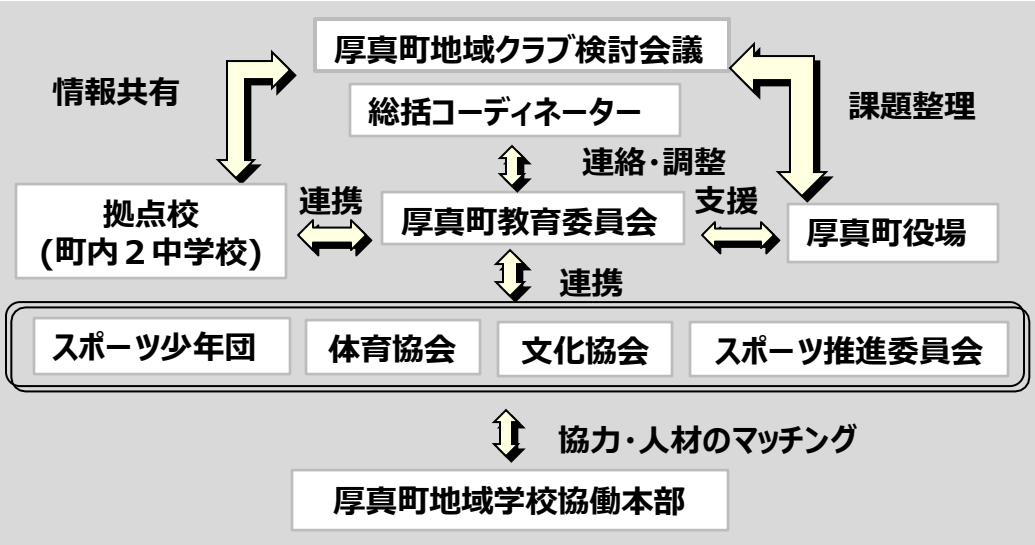
また、町域が広範囲にわたっていることから、地域的に送迎がないと部活動に参加できない生徒が多いため、地域移行する場合、活動場所への移動についての課題が生じる。今後、保護者送迎への理解のほか、スクールバスや公共交通、デマンド交通、民間事業者の移動サービス等の活用を検討しなければならない。

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）




●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

統括コーディネーター配置・連絡調整、協議会等の開催、各種団体への連絡調整、小中学校との連絡調整・情報提供、部活動指導員の配置、人材の発掘・マッチング

◉首長部局

教育委員会との連携及び情報共有

## 年間の事業スケジュール

| | |
|---|---|
| 令和６年４月 | 地域クラブ設立準備委員会（毎月開催）<br>中学校保護者総会で保護者へ説明会実施<br>近隣町との情報共有会議 |
| 令和６年６月 | 近隣町との情報共有会議 |
| 令和６年10月 | 第1回地域クラブ検討会議開催 |
| 令和６年12月 | 第2回地域クラブ検討会議開催 |
| 令和７年１月 | スポーツ少年団・運動部活動合同練習会<br>中学校入学説明会での部活動地域展開・地域クラブ設立説明 |
| 令和７年２月 | 地域指導者向け研修会の実施<br>バドミントン合同練習会① |
| 令和７年３月 | バドミントン合同練習会②<br>第3回地域クラブ検討会議開催 |

# 2.実証内容と成果

**ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備**
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

### ●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

#### 取組事項

○町内小中学校長やスポーツ少年団指導者、体育協会等のスポーツ団体、文化団体の代表者で組織した厚真町地域クラブ検討会議（委員19人）を年３回開催し、委員から意見をいただいた。

○コーディネーターを任用し、コーディネーターが中心となり、関係機関と定期的に情報交換を行う。（コーディネーター未配置により未実施）

#### 取組の成果

○当初計画ではコーディネーターとして地域おこし協力隊１名の任用を見込んでいたが、応募がなく、配置に至らなかった。そのため、会議の開催や関係機関との情報交換等、事業に遅れが生じたが、教育委員会と地域クラブ設立準備委員会が連携・協力し、検討会議の開催や近隣自治体・関係団体との情報交換、地域クラブ設立に向けての検討を行った。

○令和７年度は、統括コーディネーター１名（会計年度任用職員）、スポーツ振興支援員１名（地域おこし協力隊）の体制とし、連絡調整及びクラブ設立に向けた取組を進める。

厚真町地域クラブ検討会議委員名簿

| 番 | 氏　名 | 所　属　等 | 備　考 | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 森　晶子 | 厚真中央小学校校長 | (R6.4.1～R8.3.31) | 新 |
| 2 | 清水　京子 | 上厚真小学校校長 | (R5.6.22～R8.3.31) | |
| 3 | 渡辺　知峰 | 厚真中学校校長 | (R6.4.1～R8.3.31) | 新 |
| 4 | 中島　昭徳 | 厚真中学校教諭 | (R6.4.1～R8.3.31) | 新 |
| 5 | 石崎　和昌 | 厚南中学校校長 | (R5.6.22～R8.3.31) | |
| 6 | 内藤　帆南 | 厚南中学校教諭 | (R5.6.22～R8.3.31) | |
| 7 | 折坂　泰宏 | 厚真町体育協会会長 | (R6.4.1～R8.3.31) | 新 |
| 8 | 木戸　達也 | 厚真町体育協会事務局長 | (R5.6.22～R8.3.31) | |
| 9 | 高橋　康夫 | スポーツ推進委員会委員長 | (R5.6.22～R8.3.31) | |
| 10 | 下司　義之 | 厚真町民吹奏楽団代表 | (R5.6.22～R8.3.31) | |
| 11 | 蛇池　克広 | 写真同好会事務局長 | (R5.6.22～R8.3.31) | |
| 12 | 吉岡　博和 | 厚真町スポーツ少年団連絡協議会会長 | (R5.6.22～R8.3.31) | |
| 13 | 丹羽　智大 | 上厚真バドミントン少年団指導者 | (R5.6.22～R8.3.31) | |
| 14 | 橋場　直人 | 厚真ファイターズコーチ | (R5.6.22～R8.3.31) | |
| 15 | 森田　一 | 厚真HAPPIEST.V.C指導者 | (R5.6.22～R8.3.31) | |
| 16 | 岩間　悠人 | TTC上厚真卓球スポーツ少年団会長 | (R6.4.1～R8.3.31) | 新 |
| 17 | 山崎　基憲 | TTC上厚真卓球スポーツ少年団事務局 | (R5.6.22～R8.3.31) | |
| 18 | 帰山　雄太 | 地域クラブ設立準備委員会 | (R5.6.22～R8.3.31) | |
| 19 | 川嶋　圭 | 地域クラブ設立準備委員会 | (R5.6.22～R8.3.31) | |

#### 今後の課題と対応方針

○各学校や近隣自治体との定期的な情報共有や個々の学校部活動の課題の洗い出しのほか、地域展開に向けた取り組みについて具体的な方向性を示し、学校、生徒及び保護者、地域の方達の共通理解が図れるよう、説明会及び広報活動をコーディネーターが中心となって定期的に行う。

○活動場所への送迎について、保護者協力の理解やスクールバス・公共交通・デマンド交通の活用や料金負担に関する考え方を整理する。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
**イ：指導者の質の保障・量の確保**
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保**

### 指導者研修の内容

部活動地域移行を見据え、地域指導者の研修機会の充実を目的として、専門性の高い大学教諭を招いて「スポーツ中の事故防止・対応」という内容で講義をいただいた。

内容は、心停止、熱中症、救急処置法、事故防止対策等、スポーツ中に起こり得る事故とその対応についてという、どの種目の指導者にも共通するもので、緊急時の対応など、スポーツ指導者のみならず、一般の方々にとっても有益な内容であった。

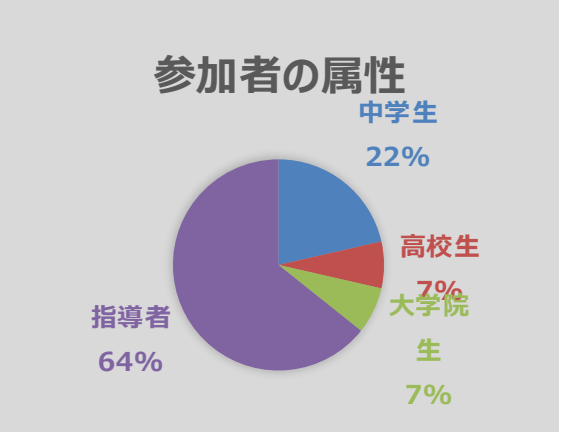
### 指導者研修の参加実績

・開催日：　令和７年２月１日
・開催回数：　１ 回
・参加人数：　１４　人（中学生３人、高校生１人、大学院生１人、指導者９人）
・参加団体：厚真スローイングチーム（陸上）、World Rotation（陸上）、厚真SPEED（スピードスケート）、厚真ファイターズ（野球）、北海道厚真高等学校（柔道・野球）、東海大学（陸上）

### 受講者の声

今回は、講師の帰省に合わせて土曜日に開催したことや、町内のイベントと重なったこともあり、メインターゲットである指導者の参加が少なかったことは反省点である。

しかし、実際に競技を行っている中学生や高校生等の参加があり、内容もスポーツ中に起こり得る事故と緊急時の対応という具体的なものであったことから、「とても参考になった」との声があった。




### 今後の課題と対応方針

地域の指導者に①事故防止・対応、②暴力・ハラスメント根絶、③成長段階に応じた指導など、指導者として必要な知識・技能を常にアップデートしていかなければならないという意識づけ、地域指導者としての登録制度の検討（部活動指導員同等の指導者へ対する待遇保障のため）が必要である。そのために、指導者への研修機会の確保については今後も継続して取り組んでいく必要がある。

# 2.実証内容と成果



## 取組内容

**●取組項目名　エ：面的・広域的な取組①**

### 取組事項

○部活動地域展開に向けて、町内のスポーツ少年団員と運動部活動生が合同で体力づくりを行うことにより、体力向上と種目間・世代間交流を深めることを目的とした「スポーツ少年団・運動部活動合同練習会」を実施した。

### 実施内容

○日時：令和７年１月22日

○場所：厚真町スポーツセンター

○参加者：37人（小学生15人、中学生13人、高校生6人、指導者３人）

○講師：小南　拓人 氏（染めQ）
陸上競技やり投選手、東京オリンピック日本代表

○内容
冬場に室内で行える体力トレーニングを実践形式で指導。
・ウォーミングアップ（参加者主導）
・股関節や背中周りのストレッチング
・走力を高めるための各種ドリル
・跳躍力を高めるためのトレーニング方法
・投力を高めるためのトレーニング方法
・全員リレー

### 取組の成果

○合同練習では、小学生から高校生までのアスリートが一緒に体を動かす中で、互いに教え合う姿、上級者の動きを真似ようとする姿、他世代でグループを作り交流する姿などが見られ、多種目多世代で行う活動の良い効果を実感することができた。

○今回は、小学校３校、中学校４校、高校１校の計８校にそれぞれ所属する児童生徒が参加したが、高校生を中心に小学生を補助したり、応援の声をかけるなど、年下の子に対する援助が自然と行われていたことが印象的であった。

○現在進めている、新たな総合型地域クラブ設立と令和９年を目標としている部活動地域展開に向けて、子どもたちのニーズ・実態を把握する良い機会となった。

### 今後の課題と対応方針

○小学生から高校生まで各世代が集まったが、競技種目がサーフィンと陸上競技の２つにとどまってしまった。原因としては、広報の不足や実施場所と日程の設定などが考えられる。

○部活動地域展開を進める上で、『場所』と『移動』の問題は、引き続き工夫を重ねて解決しなければならない問題である。今回の実証事業で、地域展開に際しては、学校体育施設を活動拠点とすることが児童生徒にとって参加しやすさにつながることが分かった。

# 2.実証内容と成果



## 取組内容

**●取組項目名　エ：面的・広域的な取組②**

### 取組事項

○令和７年度からの中学校２校合同による地域クラブ設立に向けた交流と、部活動地域展開に向けて、町内でバドミントンに親しむ幅広い世代が一同に会して練習を行うことにより、技術向上と交流を深めることを目的に「バドミントン合同練習会」を実施した。

### 実施内容

○日時：令和７年２月13日
○場所：厚真町スポーツセンター
○参加者：25人（小学生10人、中学生8人、指導者7人）
○講師：三上　裕司　氏（一般社団法人ノーススタークリエイション）
日本スポーツ協会公認スポーツ指導者バドミントンコーチ、スポーツリズムトレーニングディフューザー

○内容
ストレッチやウォーミングアップ、基礎的な打ち方などについて実践形式で指導。
・ウォーミングアップ（ランニング、ステップ、ダッシュ、スキップ、クリア打ちでのラリー等）
・ドライブ、プッシュの基礎練習
・ドライブでのラリー練習
・クリアの基礎練習
・クリアのラリー練習（中学生のみ）

### 取組の成果

○練習会では、小学生から大人までが一緒に体を動かす中で、中学生が小学生に教える姿や、地域の指導者が中学生にアドバイスする姿が見られ、多世代間での交流や活動の良い効果を感じることができた。
○講師の三上氏も、小・中学生が一緒に行うメニューと、技術や体力に合わせて小・中学生が別々に行うメニューを組んでくださり、交流だけでなく技術向上の面においても効果があったと感じた。

### 今後の課題と対応方針

○昨年実施したバドミントン合同練習会は参加者が限られていたが、今回は幅広く周知した結果、小学生から大人まで各世代が集まった。しかし、テスト期間に伴う部活動中止期間と重なったことから高校生の参加がなかったこと、また、他の町主催行事とも日程が重なってしまったことから、一般の参加が少なかった。
○合同練習会同様、部活動地域展開を進める上で、『場所』と『移動』の問題は、解決しなければならない課題である。また、地域展開に際しては、学校体育施設の活用など、子ども達が活動しやすい場を提供することも課題である。

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 参考資料（広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

東京オリンピック日本代表選手に学ぶ

### スポーツ少年団・運動部活動合同練習会

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 主　催 | 厚真町教育委員会（地域クラブ設立準備委員会） |
| 2 | 目　的 | 町内のスポーツ少年団員と運動部活生が合同で体力づくりを行うことで体力向上と種目間・世代間の交流を深めることを目的とする。 |
| 3 | 日にち | 令和7年1月22日（水）16時30分～19時00分 |
| 4 | 場　所 | 厚真町スポーツセンター |
| 5 | 参加対象 | 小学5年生から高校3年生までのスポーツ少年団員、運動部活動生 |
| 6 | 参加料 | 無　料 |
| 7 | 内　容 | 講師によるコーディネーショントレーニングや走・跳・投の運動能力を高めるための実技トレーニング講座 |
| 8 | 講　師 | 小南拓人氏（染めQ）<br>陸上競技やり投げ選手　自己ベスト82m52（日本歴代5位）<br>1995年7月26日生まれ<br>札幌第一高→国士舘大学→染めQ<br>・インターハイ優勝<br>・日本選手権優勝<br>・東京オリンピック日本代表 |
| 9 | 参加申込 | 令和7年1月18日（土）までに、下記QRコードを読み取り申し込みフォームに必要事項を入力してください。 |
| 10 | バス運行 | 上厚真放課後児童クラブ→スポーツセンター（行きのみ）間のスクールバスを運行します。上厚真小学校、厚南中学校の児童生徒は利用可能です。<br>16：00上厚真放課後児童クラブ発<br>※行きのみの運行です。帰りのお迎えは各家庭でお願いします。 |
| 11 | その他 | 室内シューズ、タオル、飲み物を持参してください。 |
| 12 | 問合せ | 厚真町教育委員会社会教育グループ　電話：27−2495 |



【合同練習会案内チラシ】

### 令和６年度の部活動地域展開に向けた活動報告

| 随時 | 地域クラブ設立準備委員会 | 青少年センター |
|---|---|---|
| 10月24日 | 第1回地域クラブ検討会議（13人出席）<br>・これまでの取り組み説明。<br>・R9地域展開に向けてのスケジュールを確認 別紙1 | 青少年センター |
| 12月12日 | 第2回地域クラブ検討会議（13人出席）<br>・道スポ協講師による総合型SC学習会を開催。<br>講師：熊耳 雅美（総合型クラブアドバイザー） | 福祉センター |
| 1月20日 | 両中学校バドミントン部連絡会議<br>・両中学校部活顧問と設立準備委員会による会議を実施。両校合同で地域クラブを立ち上げ、R7の中体連出場を目指すという方向性を共有。 | 青少年センター |
| 1月22日 | スポーツ少年団・部活動合同練習会 別紙2<br>・スポ少団員と運動部活生が合同で体力づくりを行い種目間、世代間交流を深める。<br>・講師に東京五輪やり投げ日本代表選手を招聘。<br>講師：小南 拓人氏（染めQテクノロジィ） | スポーツセンター |
| 1月23日 | 町内バドミントン関係団体連絡会議<br>・両中学校部活顧問と地域のバドミントン団体関係者が集まり、情報共有と地域連携について協議した。 | 青少年センター |
| 1月25日 | バドミントン部合同練習会及び保護者説明会<br>・地域クラブを立ち上げて活動する方向性の確認。 | 厚真中学校 |
| 1月30日 | 厚真中学校新入学生説明会 別紙3<br>・新入学生保護者向けにR7の部活動の扱いについて説明。 | 厚真中学校 |
| 2月1日 | 地域スポーツ指導者研修会 別紙4<br>・地域指導者の知識・技能向上を目的として、専門家を招聘して研修会を実施。<br>『スポーツ中の事故防止・対応』<br>講師：大垣　亮氏（帝京平成大学人文社会学部講師） | スタードーム |
| 2月12日 | 厚南中学校新入学生説明会 別紙3<br>・新入学生保護者向けにR7の部活動の扱いについて説明。 | 厚真中学校 |
| 2月13日 | 第1回バドミントン合同練習会 別紙5<br>・部活を含む地域のバドミントン関係者が合同で練習会を行い、技術向上と世代間交流を深める。<br>講師：三上 裕司氏（ノーススタークリエイション） | スポーツセンター |
| 2月22日 | バドミントン部合同練習会及び保護者説明会<br>・地域クラブを立ち上げて活動する方向性の確認。 | 厚南中学校 |
| 3月10日 | 第3回地域クラブ検討会議（書面）<br>・書面による活動報告及び次年度計画の提示。 | 書面開催 |
| 3月13日（予定） | 第2回バドミントン合同練習会 別紙5<br>・上記練習会の2回目を開催予定。<br>講師：三上 裕司氏（ノーススタークリエイション） | スポーツセンター |
| 3月21日（予定） | 総合型SC先進地視察（たかす総合型SC）<br>・行政主導により総合型SCを立ち上げ地域移行に取り組んでいる鷹栖町を視察予定。 | 鷹栖町 |

【活動報告】

出典:第3回厚真町地域クラブ検討会議資料

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 総括・成果の評価・今後に向けて

### ●総括

本町における部活動の地域移行は、少子化や活動の多様化に伴い、中学校部活動の入部生徒数が減少している現状を踏まえた必要な取り組みである。

令和５年度の検討を通じて、地域指導者の確保や指導体制の整備が課題として浮き彫りになった。特に、地域指導者の負担や安全管理に対する懸念が示され、学校と地域指導者をつなぐコーディネーターの必要性が明らかとなった。また、広域連携の重要性が認識され、近隣自治体との情報共有が今後の展開において不可欠であることが確認された。加えて、活動場所への移動手段の確保が地域移行における課題として指摘された。

また、合同練習会の実施を通じて、多世代交流が促進されることの重要性も再認識された。特に、小学生から高校生までの幅広い年代が集まり、競技を通じた交流を深めることが、スポーツにおける地域の一体感を生むきっかけとなった。しかし、指導者の確保や移動手段の問題、各種競技団体との連携不足など、克服すべき課題が依然として多く存在している。

### ●成果の評価

本年度の取り組みでは、地域クラブ設立に向けた検討会議の開催や合同練習会の実施など、地域移行の基盤づくりが進められた。地域クラブ設立準備委員会と教育委員会が連携し、地域クラブの必要性を明確化し、近隣自治体や関係団体との情報交換を行ったことは評価できる。また、スポーツ少年団や学校部活動生が合同で練習する機会を設けたことで、多世代・多種目間での交流の良さが確認され、地域移行の方向性が具体化した。

特に、バドミントン合同練習会では、小学生から大人までの幅広い世代が参加し、中学生が小学生を指導し、地域指導者が中学生にアドバイスを行うなど、世代間交流が深まった。一方で、広報活動の不足や日程調整の課題があり、今後の改善が求められる。また、地域指導者研修会を開催し、スポーツ中の事故防止・対応について学ぶ機会を提供したが、指導者の参加率が低かったことが課題となったことから、継続的な研修機会の確保が必要である。

### ●今後に向けて

今後は、学校や近隣自治体との情報共有を進め、部活動の地域移行に向けた具体的な方向性を明示する。また、コーディネーターの配置を早急に実現し、関係者との調整や広報活動を強化することが重要である。指導者の質と量の確保に向けた研修機会の充実を図るとともに、待遇面についても検討を進める。さらに、活動場所への移動手段の確保に向け、スクールバスや公共交通の活用について方針を整理し、保護者の理解を得ることが不可欠である。

また、合同練習会の改善として、より多くの種目を取り入れ、異なる競技の選手同士が交流する機会を増やすことが望ましい。広報活動を強化し、参加者の増加を図るとともに、地域クラブの活動への関心を高める取り組みが必要である。

地域クラブ創設を着実に進め、多様な生徒が参加しやすい環境を整備することで、持続可能な部活動の地域移行の実現を目指していく。

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 参考資料（活動写真）



【合同練習会でのトレーニングの様子】



【合同練習会でのトレーニングの様子】




【バドミントン合同練習会】




【指導者研修会】

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

**令和５年**
・厚真町地域クラブ検討会議設置。
・地域おこし協力隊をコーディネータとして、団体や教育委員会など関係機関との連携や調整を密にする体制づくり。

**令和７年**
○地域移行試行期間
・部活動指導員の活用
・教員の地域クラブへの参画（兼職兼業）
・合同クラブ活動の試行
・準備ができた種目から地域へ移行

**令和８年**
○地域移行試行期間
・部活動指導員の活用
・教員の地域クラブへの参画（兼職兼業）
・合同クラブ活動の試行
・準備ができた種目から地域へ移行

| 令和５年 | 令和６年 | 令和７年 | | 令和８年 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 地域クラブ検討会議設置・検討開始 | 移行準備、地域との情報共有 | 休日部活動移行の試行 | 地域クラブ創設準備 | 休日部活動の完全移行 | 総合型地域クラブ創設・法人格取得 |

**令和６年**
«運営主体»地域クラブ設立準備委員会
・学校と地域の橋渡し
・地域移行の可能性を探る
・事務局担い手の発掘
・近隣市町との連絡調整
・保護者への説明会実施

**令和７年**
«運営主体»地域クラブ設立準備委員会
・クラブアドバイザー１名、地域おこし協力隊１名を専任として任用し、R8創設に向けた実質的な準備を加速させる。
・準備委員会に文化団体関係者を入れ、文化部のクラブ化の動きを加速させる。

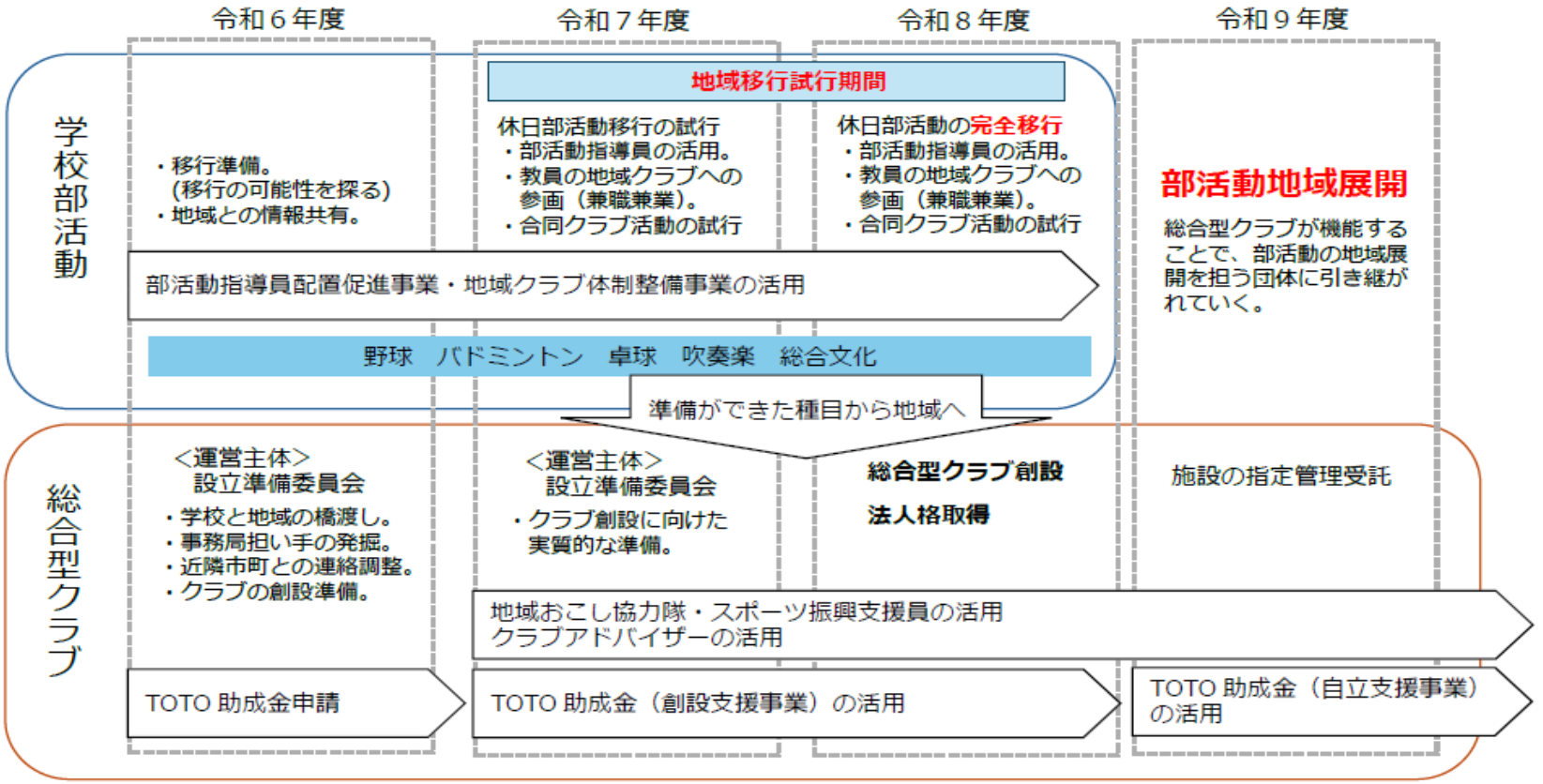
**令和８年**
«運営主体»総合型地域クラブ（法人）
・年度当初にクラブを設立（NPO法人化）し、１年間のクラブ運営の中で、事務局体制の強化と経営の安定化を図る。
・令和９年度の地域展開完全実施に向けての準備を加速させる。

# 3.今後の方向性

スポーツ庁

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

### 部活動地域移行と総合型クラブ創設のスケジュール（案）



スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

## 地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

# 北海道 安平町


自 治 体 名 ： 北海道安平町
担 当 課 名 ： 教育委員会事務局
電 話 番 号 ： 0145-29-7036

# 1.自治体の基本情報

スポーツ庁

## 基本情報

| | |
|---|---|
| 面積 | 237.16 ㎢ |
| 人口 | （11月時点）<br>7,221 人 |
| 公立中学校数 | 2 校 |
| 公立中学校生徒数 | 157 人 |
| 部活動数 | 10 部活 |
| 市区町村の協議会・検討会議等の設置状況 | 設置済 |
| 市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況 | 策定済 |

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

年々人口減少及び少子高齢化が進む中、平成30年北海道胆振東部地震の影響もあり人口減少は加速、現状において学校部活動については、チームスポーツは単独で出場できる状況になく、合同チームでの出場となっている。また、指導者についても競技を経験している教員の確保は難しく制度創設当初から部活動指導員配置促進事業を活用し外部からの指導者により活動を行っていた。

令和2年に部活動地域移行に取り組むべく「安平町部活動の在り方に関する検討委員会」を設置。

検討委員会には、学校管理職、部活動顧問、総合型地域スポーツクラブクラブマネージャーを委員として迎え検討を重ねてきた。

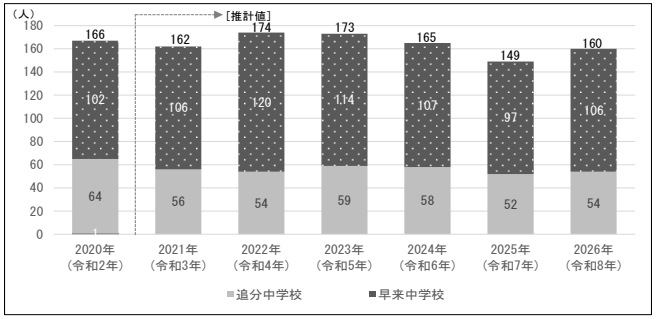
検討委においては、部活動をどうするかという視点ではなく、町としてこの先のスポーツ環境をどうするかという大きな視点でと方針を打ち出さなければならないという結論に達し、安平町としては「令和7年度末ですべての部活動をクラブ化（廃止）」「子どもから大人までの持続的なスポーツ・文化環境の構築」「これらをアビースポーツクラブを中心として構築する」ことを方針として決定した。

また、併せて当町と同様に震災被害を受け大きく人口減少している厚真町、むかわ町を含めた東胆振3町にて広域連携の可能性を探るべく担当者会議を不定期により開催し、情報の共有を図っている。

なお、令和6年10月現在当町においては9団体のクラブ化を完了し、運動部は２部活がまだ地域移行出来ておらず、クラブ化に向けて模索しているところだが、指導者・支援者が見つからない場合および生徒の継続要望がない場合においては廃部となる。

今後の課題としては、指導者に係る報酬や地域間の送迎サポートに係る費用、地域クラブ運営に係る費用等、多岐にわたる費用が必要であるが、安平町単独で進めていくには財政的にも厳しいところであり、これらの費用を捻出することは困難である一方、地域クラブの活動継続には長期的な財政支援が必要である。

また、人口減少に伴い地域クラブの人員確保における取組として、幼児期から体の動かす機会を提供し、スポーツを楽しいと思ってもらうことで、クラブへの加入を促し、子どもから大人までのスポーツ・文化環境の構築を目指していきたい。




02 部活動地域移行の概要　～安平町の部活動の状況（R６）～

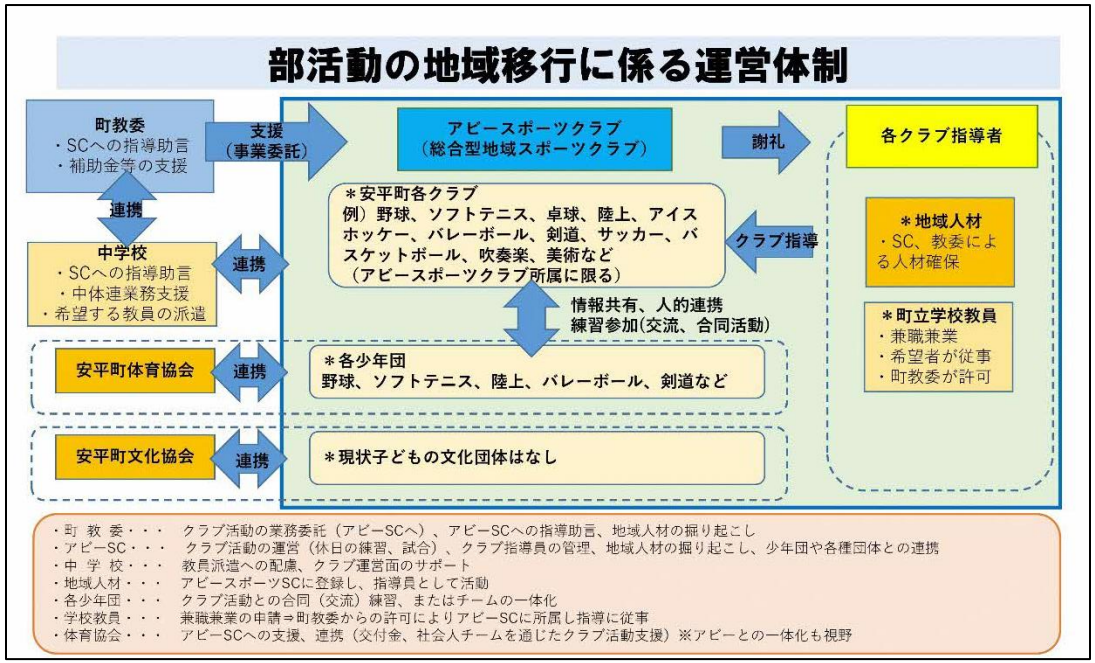
| 部活動 | 追分中学校 | 早来学園 |
|---|---|---|
| 陸上部 | 厚真陸上クラブ | 厚真スローイングチーム |
| 野球部 | 安平ベースボールクラブ | 安平ベースボールクラブ |
| バレーボール部 | ABIRA Volleyball Club | ABIRA Volleyball Club |
| ソフトテニス部 | あびらソフトテニスクラブ | 移行検討中 |
| 剣道部/卓球部 | 追分剣道スポーツ少年団 | 移行検討中 |

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）




### ◉教育委員会

【学校教育G】
・部活動改革の主幹、学校との調整、連携、学校に関する事項
・アビーＳＣへの指導助言及び事業委託により運営費支援や地域移行に関わる総括的事務
・地域部活動検討委の開催、運営及び地域（保護者）説明会の開催、運営
【社会教育G】
・安平町のスポーツ・文化環境の構築

### ◉首長部局

・総務課情報G…広報やローカル放送を用いた地域移行の情報発信
・政策推進課政策推進G…予算措置、企業版ふるさと納税の検討

## 年間の事業スケジュール

| | |
|---|---|
| 令和６年４月 | ・剣道部・バレーボール部・野球部<br>⇒ クラブ化（5部活→3団体）<br>・送迎バス運行<br>・中体連事務作業伴走 |
| 令和６年５月 | ・検討委員会① |
| 令和６年７月 | ・検討委員会②<br>・視察受入（3団体） |
| 令和６年８月 | ・自動販売機設置キックオフイベント<br>・ソフトテニスヒアリング（2校）<br>・追分中、早来学園教諭説明会 |
| 令和６年９月 | ・生徒への説明会（２校）<br>・視察受入（４団体）<br>・保護者説明会【】（２校）<br>・各機関のアンケート調査実施<br>（生徒・保護者・指導者・教諭） |
| 令和６年10月 | ・検討委員会③<br>・ほっかいどう応援セミナー参加（大阪） |
| 令和６年12月 | ・検討委員会④<br>・あびらスポーツフェス<br>（道教委部活動推進課主催事業）<br>・保護者説明会【6年生】（2校） |
| 令和７年２月 | ・指導者研修会 |
| 令和７年３月 | ・指導者説明会（次年度以降の説明） |

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の運営実績

### ①全体に関すること

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中学校数 | 2 校 | 実施した地域クラブ総数 | 9 クラブ |
| ケース別クラブ数 | A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数） | | 4 クラブ（6 部活） |
| | B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等） | | 2 クラブ |
| 全体の指導者数 | 34人 | 全体の運営スタッフ数 | 3 人 |

### ②各クラブに関すること

| クラブ名 | 運営団体種別 | 種目<br>※新規のものは末尾に（新）を付ける | 実施回数 | 実施時間帯 | 参加者（学年別） | 実施期間 | 活動場所 | 指導者数 | 運営スタッフ数（他クラブと兼務） | 会費 | 大会参加方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 厚真スローイングチーム | NPO法人アビースポーツクラブ | 陸上 | 月 20 回程度<br>平日：4日<br>休日：1日 | 平日<br>17：00～19：00<br>休日<br>9：00～12：00 | 1年：0人<br>2年：0人<br>3年：6人<br>合計：6人 | 通年 | 学校施設（体育館）<br>町内・町外体育施設（厚真スタードーム） | 6 人 | 1名 | 1,600円/月 | 中体連：地域クラブ<br>その他：地域クラブ |
| 厚真陸上クラブ | NPO法人アビースポーツクラブ | 陸上 | 月 16 回程度<br>平日：3日<br>休日：1日 | 平日<br>17：00～19：00<br>休日<br>9：00～12：00 | 1年：6人<br>2年：3人<br>3年：2人<br>合計：11人 | 通年 | 学校施設（体育館）<br>町内・町外体育施設（厚真スタードーム） | 5 人 | 5名（5人指導者と兼務） | 0円/月 | 中体連：地域クラブ<br>その他：地域クラブ |
| Felire FC U-15 | NPO法人アビースポーツクラブ | サッカー | 月 12 回程度<br>平日：2日<br>休日：1日 | 平日<br>17：00～19：00<br>休日<br>9：00～12：00 | 1年：2人<br>2年：1人<br>3年：2人<br>合計：5人 | 通年 | 早来学園（大アリーナ）<br>町内・町外体育施設 | 10 人 | 2名 | 2,500円/月 | その他：地域クラブ |
| ABIRA Volleyball Club（女子） | NPO法人アビースポーツクラブ | バレーボール | 月 20 回程度<br>平日：4日<br>休日：1日 | 平日<br>17：00～19：00<br>休日<br>9：00～12：00 | 1年：4人<br>2年：8人<br>3年：7人<br>合計：19人 | 通年 | 追分中学校（体育館）<br>早来学園（大アリーナ）<br>町内・町外体育施設 | 3 人 | 2人（1人指導者と兼務） | 2,000円/月 | 中体連：地域クラブ<br>その他：地域クラブ |

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の運営実績

### ②各クラブに関すること

| クラブ名 | 運営団体種別 | 種目<br>※新規のものは末尾に（新）を付ける | 実施回数 | 実施時間帯 | 参加者（学年別） | 実施期間 | 活動場所 | 指導者数 | 運営スタッフ数（他クラブと兼務） | 会費 | 大会参加方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ABIRA Volleyball Club（男子） | NPO法人アビースポーツクラブ | バレーボール | 月 20 回程度<br>平日：4日<br>休日：1日 | 平日<br>17：00～19：00<br>休日<br>9：00～12：00 | 1年：4人<br>2年：8人<br>3年：7人<br>合計：19人 | 通年 | 追分中学校（体育館）<br>早来学園（大アリーナ）<br>町内・町外体育施設 | 2人 | 1人 | 2,000円/月 | 中体連：地域クラブ<br>その他：地域クラブ |
| 安平ベースボールクラブ | NPO法人アビースポーツクラブ | 野球 | 月 20 回程度<br>平日：4日<br>休日：1日 | 平日<br>17：00～19：00<br>休日<br>9：00～12：00 | 1年：8人<br>2年：8人<br>3年：4人<br>合計：20人 | 通年 | 学校施設（体育館）<br>町内・町外体育施設（厚真スタードーム） | 2 人 | 6人（2人指導者と兼務） | 4,000円/月 | 中体連：地域クラブ<br>その他：地域クラブ |
| 追分剣道スポーツ少年団 | NPO法人アビースポーツクラブ | 剣道 | 月 16 回程度<br>平日：3日<br>休日：1日 | 平日<br>17：00～19：00<br>休日<br>9：00～12：00 | 1年：2人<br>2年：1人<br>3年：1人<br>合計：4人 | 通年 | 学校施設（体育館）<br>町内・町外体育施設（厚真スタードーム） | 1 人 | 1人（指導者と兼務） | 1,000円/月 | 中体連：地域クラブ<br>その他：地域クラブ |
| BASKETBALL CLUB ABIRA LIBERTA | NPO法人アビースポーツクラブ | バスケットボール | 月 16 回程度<br>平日：3日<br>休日：1日 | 平日<br>17：00～19：00<br>休日<br>9：00～12：00 | 1年：10人<br>2年：0人<br>3年：1人<br>合計：11人 | 通年 | 早来学園（大アリーナ）<br>町内・町外体育施設 | 3 人 | 5 人 | 1,000円/月 | 中体連：地域クラブ<br>その他：地域クラブ |
| あびらソフトテニスクラブ | NPO法人アビースポーツクラブ | ソフトテニス | 月 20 回程度<br>平日：4日<br>休日：1日 | 平日<br>17：00～19：00<br>休日<br>9：00～12：00 | 1年：1人<br>2年：2人<br>3年：1人<br>合計：4人 | 通年 | 追分中学校（体育館）<br>早来学園（大アリーナ）<br>町内・町外体育施設 | 2 人 | 2人（指導者と兼務） | 500円/月 | 中体連：立ち上げが中体連後だったことから、R7年度から地域クラブとして参加<br>その他：地域クラブ |

### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

■ イベント
- ●アビーまつり（クラブ活動合同体験会）
- ●スポーツアートチャレンジデー（クラブ活動合同体験会）
- ●あびらスポーツフェス（北海道教育委員会主催イベント）

■ 体験会
- ●ABIRA Volleyball Club（4月）
- ●安平ベースボールクラブ（10月）
- ●あびらソフトテニスクラブ（10月）

# 2.実証内容と成果

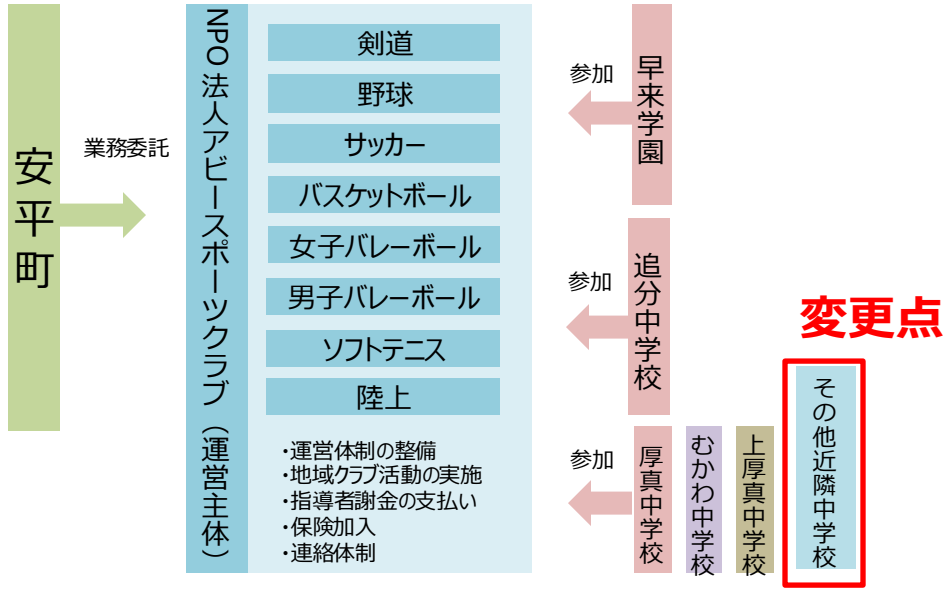
スポーツ庁

## 主な取組例

### ●クラブ　活動概要

| | |
|---|---|
| 地域クラブ活動で実施した種目 | 剣道、野球、サッカー、バスケットボール、女子バレーボール、男子バレーボール、ソフトテニス、陸上 |
| 運営団体名 | NPO法人アビースポーツクラブ |
| 期間と日数 | 通年　月12回、16回、20回程度<br>※クラブによって異なる |
| 指導者の主な属性 | 地域人材、教職員 |
| 活動場所 | 早来学園（大・中アリーナ）、<br>追分中学校体育館<br>追分小学校体育館、<br>町内外社会教育施設 |
| 主な移動手段 | 徒歩、自転車、送迎バス、保護者送迎 |
| １人あたりの参加会費等（年額） | 剣道、バスケットボール：12,000円<br>男女バレーボール：24,000円<br>野球：48,000円<br>サッカー：30,000円<br>ソフトテニス：6,000円<br>陸上A：19,200円<br>陸上B：0円 |
| １人あたりの保険料 | スポーツ安全保険<br>生徒１人あたり：800円/年<br>指導者１人あたり：1,850円/年 |

### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）




### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、総合型クラブ、学校、保護者との連携を行う

●主任指導者

役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

●運営補助者

役割：活動において、主任指導者の補助として、生徒への指導を行う

# 2.実証内容と成果



## 取組内容

### ●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**取組事項**

○総合型スポーツクラブ事業委託
- 活動の継続
  - 送迎バス運行（詳細はエに記載）
  - 指導者の養成（詳細はイに記載）
  - 資格取得費の助成
- 運営支援
  - 情報発信
  - 保険手続き
  - 大会登録
  - 会員登録/管理
- クラブ化支援
  - 説明会の実施
  - クラブ設立準備
  - 体験会の実施
  - 指導者の掘り起こし

**取組の成果**

○統括コーディネーターを運営団体に配置したことにより、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。

○検討委員会の中で、地域移行の進捗共有および部活動廃止時期等の検討を行い、地域移行について理解を深めるほか、地域移行の方向性を定めてきた。

○Slackというツールを使うことで、各地域クラブへの全体周知及び地域クラブへの個別周知等、使い分けることができ連絡調整が円滑に行うことができた。

○地域移行の担当が教育委員会学校教育Gであることで、主に学校との連絡調整を円滑に行うことができた。

○週に１回程度、総合型クラブとのMTG機会を設けることで、地域移行の進捗の確認、次の動きの確認であったり、対面で行いコミュニケーションを密にとることによって、スピード感を上げることができた。

**コーディネーターの具体的な動きの実績**

【総括コーディネーター】
・検討委員会の調整等を実施し、関係団体との連携に努めた。
・各機関におけるアンケートの実施（生徒・保護者・指導者・教師）
・様々な会議に参加し、安平町の取組を世に発信し、また、先進地の情報を取得し共有していた。

**今後の課題と対応方針**

○令和7年度中に部活動地域移行の完全移行を目指しているところだが、今後は完全移行後の持続可能な体制づくり（財源確保など）を構築していく必要がある。また、中学生世代だけではなく、幼少期から大人までのスポーツ・文化環境の再構築を目指し、並行して取組を進めていく。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
**イ：指導者の質の保障・量の確保**
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

### ●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

**取組事項**

○ダブルゴールコーチング研修の実施
　質の確保の観点から従来から総合型クラブで実施している「ダブルゴールコーチング」を必須の研修として実施する。
○体育協会参加の競技連盟（協会）、各企業等との協力体制の構築
　質の確保の観点から、町内の各団体企業との連携を構築

| 人材バンクの人数 | 人材バンクの年齢構成 | 登録者属性 | 種目 | 資格有無 |
|---|---|---|---|---|
| 0人 | なし | なし | なし | なし |

**取組の成果**

○全体で9クラブ指導者34名を確保した。（うち有償指導者は12名）
○教員も兼職兼業の制度で指導できる環境を確保した。
○年４回、指導者研修会を実施し、各回平均９人の参加があった。
○研修会の中で指導者同士の情報共有・意見交換を行なった。
○大人のスポーツDAYが直接指導者の発掘に繋がってはいないが、指導者発掘の手段として今後も続けていきたい。




※指導者研修会（オンライン開催）の様子

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
**イ：指導者の質の保障・量の確保**
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②**

### 指導者研修の内容

【ダブルゴールコーチング研修】

・対象：指導者・保護者

・目的：勝利至上主義からの脱却

工夫した点：参加者の負担を減らすため、オンラインと現地と開催した。また、最後の研修会では実技（アルティメット）をとおしてコーチングスキルについて教わり、実際に指導している姿に対して講師の方から評価していただき、座学だけでは味わえない学びがあった。

### 指導者研修の参加実績

・開催日：　①6月24日、②8月26日、③11月4日、④2月17日

・開催回数：　4 回　（内④については、現地開催で安平町主催）

・参加人数：　36 人（延べ人数）

### 今後の課題と対応方針

○勝利至上主義からの脱却ということで、毎年指導者研修会を開催している。地域クラブ数も増えてきたことから、安平町としての方針（ダブル・ゴール・コーチング）を各指導者に理解していただき、パワハラ防止等に努めていきたい。

○指導者の発掘においては、現在は地域の人または関わりたい教員が指導に当たっているが、今後の掘り起こしとしては「大人のスポーツDAY」がきっかけでマッチングできたら良い。

### 受講者の声

参加者アンケート結果（抜粋）

■総合評価

・イベント満足度：全員が高評価（４～５点）

・再参加意向：全員が「また参加したい」「日時によっては参加したい」

■理解度と実践意欲

・体感度：全員が高評価（4～5点）

・理解度：全員が「今から実践することができる」など前向きな回答

・実践意欲：全員が高い実践意欲を示す。（4～5点）

■理解度

・ELM…全員が「今から実践することができる」など前向きな回答

・「感情タンク」…全員が「今から実践することができる」など前向きな回答

・ダブル・ゴール…全員が「今から実施することができる」など前向きな回答

■子供に足して、すぐに実践したいこと

「よく話を聞くこと」「十分なコミュニケーションづくり」「声掛けの質を上げたい」

■ワークショップの価値

・異なる種目の指導者との交流機会

・指導者としての自己振り返りの機会

・子どもへの関わり方の具体的ヒントの取得

■総括

参加者全員がダブル・ゴール・コーチングの考え方に高い関心を示し、理解度・満足度ともに高い。特に「感情タンク」や実践的なコミュニケーション手法が印象に残り、すぐに実践したいという意欲が見られる。今後は更なる実践的なワークショップの継続が期待されている。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
**ウ：関係団体・分野との連携強化**
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

### ●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

#### 取組事項

○町体育協会との連携（総合型クラブへの事務事業の一部移管）※最終的には団体の統合

総合型クラブへ体育協会の事務を移管（団体運営費の支出事務等）することによる各クラブの運営管理体制の一本化

○SIB/PFSの活用に係る民間企業との連携に係る協議

クラブ運営費の財源確保に向けた手法の検討（道、町、総合型クラブによる検討、連携）

#### 取組の成果

○町体育協会との連携については、総合型クラブが体育協会事務局の一部を担うことで関係構築を行った。具体的に事務の移管という話まではたどり着いていないが、次年度以降の運営管理体制の統一に向けてさらに動いていきたい。

○北海道（Doスタート事業）と協力し『大塚製薬』の自動販売機を早来学園まなび（地域開放部分）に設置した。自動販売機の売上の一部が総合型クラブに流れる仕組みで、総合型クラブの財源確保の手段として大きな成果となった。また、ほっかいどう応援セミナーに参加し、安平町の地域移行の取組を説明したうえで、賛同していただいた企業と連携を図っている。SIB/PFSの活用については、制度上難しいと判断し、総合型クラブと判断し見送ることとした。



※ほっかいどう応援セミナーにおけるプレゼンテーションの様子



※ほっかいどう応援セミナーにおけるブース対応の様子

#### 大塚製薬と北海道とアビーSCによるキックオフイベント




#### ほっかいどう応援セミナーの概要

・「ほっかいどう応援セミナーとは、道内の市町村と企業・団体のマッチングが目的で、で市町村の地域課題をプレゼンテーションし、企業版ふるさと納税や寄附などのあらゆる連携を図るセミナー。

#### 今後の課題と対応方針

○町体育協会との連携は、少しずつ（少年団活動）総合型クラブに移管できたらと考えている。

○民間企業との連携は、大塚製薬をはじめ少しずつ連携が増えてきていることから、さらに企業を増やしていければ良い。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
**エ：面的・広域的な取組**
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　エ：面的・広域的な取組**

### 取組事項

○周辺市町村との広域連携合同活動の検討

クラブ化が進む一方子どもの数が増える物ではなく、将来的には市町間における連携が必須となる。

○町内地区間（追分-早来）の移動手段の確保

放課後のクラブ地区間の移動

### 取組の成果

○広域連携については近隣市町との生徒の行き来はあるものの、具体的な運営についての協議等は行っていない。次年度以降は、さらに連携深めていきたい。
○陸上、サッカー、野球、バレーボールにおいて、近隣市町村より生徒の参加がある。
○近隣市町村から生徒が参加することは、クラブ活動が活発になり良い影響が出ている。さらには、町内の子どもだけでは、成り立たないクラブもあるため活動の存続にも繋がっている。
○町内地区間移動については、総合型クラブ所有のバスを放課後活用している。保護者説明会の中でも、放課後の移動を心配している保護者も多くいたため実施することとなった。一部のクラブが活用しているが、バス運行については高評価をいただいている。
○また、行き帰りの送迎だけではなく行きのみをバス運行している。理由としては、放課後の保護者送迎は時間的にも不可能に近いが、帰りの送迎については、仕事も終わっている時間帯なので迎えに行くことが可能である。



※総合型クラブが運営する送迎バスを下車する生徒の様子

### 移動手段

○総合型クラブ所有のバスを活用し、生徒の活動場所までの移動手段を確保
・利用者数　　延べ946人　・運行経路　以下のとおり
通常時：①早来学園 → ②安平地区 → ③追分中学校 → ④安平地区 → ⑤早来学園
短縮授業　①遠浅地区 → ②早来学園 → ③安平地区 → ④追分中学校 → ⑤安平地区 → ⑥早来学園 → ⑦遠浅地区
・工夫した点
・全曜日のバス運行せずに、活動が多いクラブがあるかつバスを利用するクラブがある曜日に限定して運行している。
・通常授業と短縮授業で経路等を変更している。

### 今後の課題と対応方針

○広域連携とはいえ、生徒の行き来しか連携が出来ていないため、今後、近隣市町の連携が必要不可欠であり、密に打ち合わせを行っていきたい。
○持続的にバスを運行する仕組みが、構築できていないことから、次年度以降はその仕組みづくりに力を入れたい。（バス運転手の不足、バス運行の財源確保など）

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
**オ：内容の充実**
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　オ：内容の充実①**

**取組事項**

○体験会、活動機会の提供
- あびらスポーツフェス
- あびーまつり
- スポーツアートチャレンジデー
- 各地域クラブ体験会
- 大人のスポーツDAY
- キッズスポーツDAY
- 親子スポーツDAY
- パブリックビューイング

**活動の詳細**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 参加人数 | 400 人　程度 | 指導者数 | 10 人　程度 |
| 属性 | 町民、近隣市町村向けイベント | | |
| 具体的な内容 | イベント名『あびらスポーツフェス』（北海道教育委員会主催、安平町共催）<br>多世代の交流を目的としたユニバーサルスポーツ体験、多種目のスポーツを実施するマルチスポーツ体験、部活動地域移行の必要性・現状を伝え、改めて住民の理解促進を目的としたトークショーを実施した。日本ハムファイターズをはじめ、あらゆるプロスポーツ関係者にも協力いただけた。 | | |
| 子供の声 | ● 様々なスポーツを体験できてうれしかった。<br>● 伊藤大海選手が格好良かった。<br>● 普段やらないスポーツを体験できてよかった。 | | |
| 関係者の声 | ● プロ選手の指導を間近に聞くことができて、今後の指導に活かしていきたいと思った。<br>● 改めて部活動地域移行の必要を知った。 | | |
| 運営経費 | 北海道教育委員会負担（スポーツ庁委託事業：地域スポーツ連携・協働再構築推進プロジェクト） | | |

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
**オ：内容の充実**
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　オ：内容の充実②**

### 取組の成果

○あびらスポーツフェス

あびらスポーツフェスに参加した子どもの事例だが、今回のイベントをとおして『野球をやりたい！』と思い、地区の野球少年団に問い合わせたところ、本格的な野球少年団で、他のスポーツもやっていたことから辞めてから入団するよう言われ、どうしようと悩んでいた。その中で、安平町の総合型クラブに相談があり町の野球少年団で相談し、イベントに参加した子どもが安平町の野球少年団を選び、今も楽しく活動しているとのこと。以上の事例からも、子どもたちがやりたいことを繋げたり環境を整備したりというのが、安平町としてやらなければならないことであり、総合型クラブと協力しスポーツ・文化環境を整備していきたい。

○アビーまつり・スポーツアートチャレンジデー（合同部活体験会）

部活がなくなったことにより、部活動紹介での生徒勧誘機会がなくなったため、部活動紹介に代わるイベントとして実施した。クラブに所属する子どもが各クラブの紹介・勧誘を行うことで、クラブに所属していない子どもたちも、様々なクラブを体験しクラブに興味があると回答した子どもが多数いた。



※北海道教育委員会部活動改革推進課が作成したイベントチラシ

### 今後の課題と対応方針

○大きなイベントで住民の理解促進や情報の周知をしていく必要があるが、そもそも幼児期の頃から、体を動かす機会を作るイベントも大事であり、総合型クラブが企画するキッズスポーツDAYや親子スポーツDAYなど、これからクラブに入る子どもたちに対しての運動機会の提供も、子どもから大人までのスポーツ・文化環境の構築においては必要不可欠である。

○今まで部活動のときは、学校で生徒の勧誘を行ったり、活動の様子など知ることができていたが、“部活動廃止”に伴いに活動の知る機会がなくなり、また、“学校のペーパーレス化”により少年団活動の募集チラシを周知することも現状できなくなってきている。そういった中でも、団員確保の機会を持てるようにPipit（保護者配信）や町LINE@等で、町としては周知する機会を創出していきたいと考えている。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
**カ：参加費用負担の支援等**
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

### ●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等①

**取組事項**

○SIB/PFSの活用に係る民間企業との連携に係る協議

クラブ運営費の財源確保に向けた手法の検討
（道、町、総合型クラブによる検討、連携）

**地域クラブに係る経費**

**■イニシャルコストの分析**

・ユニホーム作成費用（300千円）※独自
・印刷製本費（646千円）

**■ランニングコストの分析**

・事務局人件費（3,825千円）
・指導者謝金（6,219千円）
・旅費・交通費（192千円）
・消耗品費（1,381千円）
・雑役務費（114千円）
・保険料（109千円）

**持続的な運営に必要な受益者負担額の試算**

■各地域クラブの月会費

| 地域クラブ | 月会費 |
|---|---|
| 剣道 | 1,000円 |
| バスケットボール | 1,000円 |
| 男女バレーボール | 2,000円 |
| 野球 | 4,000円 |
| サッカー | 1,500円 |
| ソフトテニス | 500円 |
| 陸上A | 1,600円 |
| 陸上B | 0円 |

○各地域クラブでは受益者負担の中から、連盟登録料や大会参加費、用具費遠征移動費などを賄っており、指導者報酬や消耗品以外については、国費や町の自主財源を充てている。

**収支バランス**

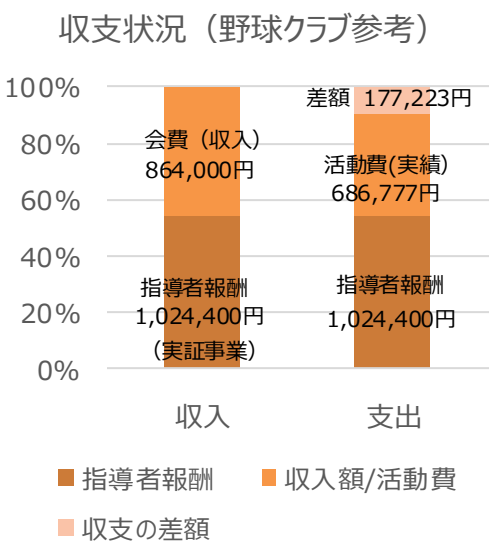
○野球クラブの例

▶会費　4,000円（月会費）
※移行クラブでは最高額
▶人数　18人

■ 収支バランスについて

・会費収入は、ほぼ活動費
・指導者報酬は全額補助に依存

選手人数が少ないため会費による指導者報酬支出が難しい。



# 2.実証内容と成果



スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等②**

### 取組の成果

○安平町の基本的な考え方は、地域クラブ活動に係る活動経費について地域クラブで負担（受益者負担）でと考えている。しかしながら、国が定めている推進期間（R5～R7）までは、各地域クラブの指導者報酬や消耗品については、国費や町の自主財源を活用することとした。実行期間（R8～13年）については、今後の地域クラブの動向を見ながら検討していきたい。

○受益者負担については、各地域クラブによって設定し徴収まで行っている。その中に保険料も含まれており、部活動時代に比べると受益者負担が増えてきている。しかしながら、月4,000円が会費の最大値だと想定する。これ以上の負担はなかなか厳しいと感じている。

○指導者報酬においては、R7年度まで国費・町の自主財源を活用する予定だが、R8からは地域クラブの財源によって支出するよう伝えてきたが、各地域クラブのヒアリングの中で、指導者報酬を地域クラブで負担するのは厳しいという声も多く聞こえている。

○各地域クラブで自主財源を確保する動きとして、町内外のスポンサーを見つけ、ユニホームなどに広告をつけるなどして、独自で財源確保に動きたいところだが、特に野球などはユニホームに広告を付けてはいけないというルールがあることから、地域クラブの財源確保は寄付のみに限られてしまっている。部活動の地域移行という時代の流れに合わせて、協議のルール自体も見直す必要があるのではと考える。

### 今後の課題と対応方針

○部活動から地域クラブ活動に移行し会費が増額することについては、一定程度の理解は得られている、一方で指導者報酬を地域クラブで負担することについては理解は進んでいない印象。持続的な地域クラブ運営は指導者がいないと成り立たないため、指導者報酬は切っても切り離せない。どうやってこの費用を賄っていくか、さらに検討していく必要がある。

○町としての考えは国の推進期間及び実行期間後には、総合型クラブの自立を目指しており、実際に総合型クラブには自立に向けて動いてもらっている。自己財源の確保に向けて、今年度は大塚製薬との連携やほっかいどう応援セミナーでマッチした企業と連携等の事例を次年度以降も増やしてほしい。

また、総合型クラブが特例認定NPOを取得したことで、寄付する側にも税制控除があり今まで以上に寄付を受けれる体制を整えることができた。

しかしながら、総合型クラブの自立に向けて動いてはいるが、最低限補助が必要な部分（送迎サポート等）は、町財源も投入することも検討していかなければならない。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
**キ：学校施設の活用等**
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

### ●取組項目名　キ：学校施設の活用等

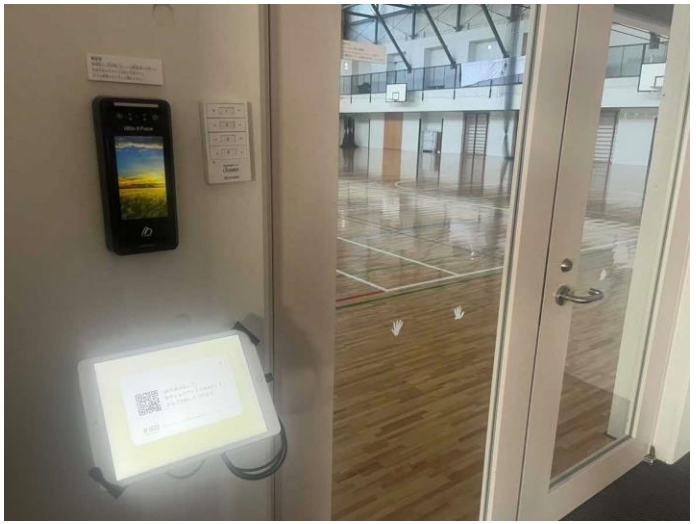
#### 取組事項

○地域クラブ活動に対しこれまでどおり学校施設の開放を実施。
　地域クラブの活動場所について部活動ではなくなった場合においてもこれまでどおり確保

○その上で開放に対する予約方法等の手続きについて統一を図る
　各学校における活動場所の確保（予約方法）にばらつきがあり調整が煩雑

#### 取組の成果

○いままで、学校で行ってきた施設利用の事務（施設貸出）は、令和6年度からは教育委員会で実施している。経緯としては、早来学園がすでに体育館（アリーナ）や家庭科室（キッチン）、音楽室などを生徒と住民が利用出来る「供用エリア」とし、ICTを利用した予約システムやスマートロックを導入してセキュリティ確保するとともに、学校運営から切り離し、学校施設の共同利用を実現している。追分小学校及び追分中学校においても、ICTを利用した予約システムの導入も視野に入れ検討していきたい。



※早来学園まなびお大アリーナの入口に設置してある顔認証システム

#### 今後の課題と対応方針

○今後、学校施設の利用において有料化を目指している。有料化に向けて条例の整備等を行っているところだが、クラブ活動においては減免の措置等の検討が必要である。

○また、クラブ活動が増えてきたことにより、活動場所が被ってきてしまうことから、施設利用会議（上半期・下半期）を開催し不公平の内容に施設の割り当てを行っていく必要がある。

# 2.実証内容と成果①

スポーツ庁

## 総括・成果の評価・今後に向けて

### ●総括

○令和7年度末に完全移行を目指す安平町は、検討委員会でゴール設定を早めにしたことによりスピード感のある地域移行が行われている。また、平日・休日と分けて考えず、学校側の意見も取り入れゴール設定をしたことで、先生方の不公平の無いように地域移行を目指している。

○教員の負担軽減においては、前々年度、前年度に比べて残業時間も減っており、部活動に充てていた時間を教材研究に費やすことができ、授業の質向上に貢献していると思われる。

○専門的な指導者がクラブの指導を担っていることで、クラブ活動が活発化し、結果にもつながってきている。ここで述べたいのは、結果ではなく教員が担っていた顧問だと限界があった指導部分を地域の有資格者の指導者が担うことで、子どもたちにとっても専門的な指導を受けることができている。

○最後に安平町は地域移行が進んでいる理由を分析すると、住民の理解が進んでいることが大きな要因である。『地域で子どもたちのスポーツ環境を守りたい』という保護者の想いから地域移行が進んでいるが、一方で費用負担の増については負担と感じている保護者がほとんどである。

### ●成果の評価

○部活動地域移行の進捗は、他地域に比べても比較的進んでいる。残りの部活（ソフトテニス・卓球）においても、移行若しくは廃部の方向性をだしていかなければならない。また、地域移行後の持続可能な地域クラブ運営の体制は、この2年間の検証を踏まえ検討していかなければならない。

○アンケートの結果、一定数の部活動地域移行に対して理解はあるが、部活動よりも保護者の負担（会費・送迎・事務）が増えることに対して不安の声も多い。また、指導者ヒアリングの中でも、安平町としては令和8年度以降に指導者報酬は地域クラブで負担してほしい旨説明したところ、『丸投げ』、『町は寄り添っていない』など、地域クラブだけではどうにもできない現場の声があった。こういった声を取りこぼさず、今後の運営体制も改めて検討していかなければならない。

### ●今後に向けて

○令和7年度に完全地域移行を目指しており、まだ移行できていない部活動についても年度内に完了させる。

○地域移行後の持続可能な地域クラブ運営に向けて、受益者負担の負担軽減に対しての補助等の検討であったり、また、幼児や小学生に対して新たに『バルシューレ教室』を実施することで、運動機会の提供および体を動かす楽しさを知ってもらい地域クラブ員の確保につなげていきたい。

○総合型クラブ自立に向けての取組として、さらに民間企業との連携を増やし、寄附の受け入れ態勢を整え、クラブの自主財源の確保に努めていきたい。また、総合型クラブの人員確保においては、一定数ボランティアで総合型クラブと関わりたい方々もいることから、指導者と別に事業運営、事務作業の協力をしてもらう多様な関わり方ができるサポーターバンクを整備していきたい。併せて、SNSで広く発信していくことで、総合型クラブの取組や事業に対しての理解促進を図ることで、町内外に総合型クラブのファンを生み出し町全体で、子どもから大人までのスポーツ・文化環境の構築に臨んでいきたい。

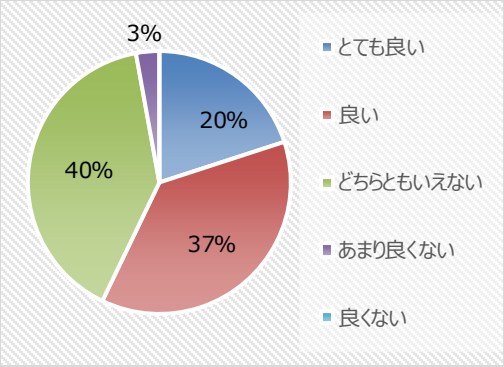
# 2.実証内容と成果②

スポーツ庁

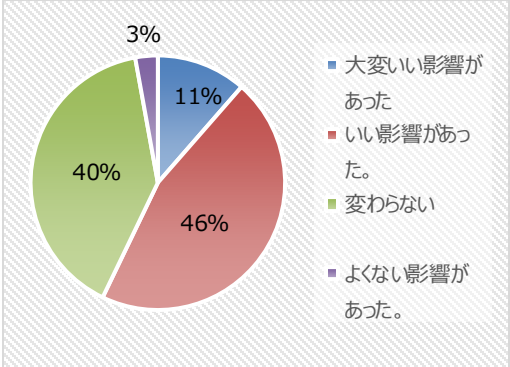
## アンケート結果・参加者の声

### ●アンケート結果

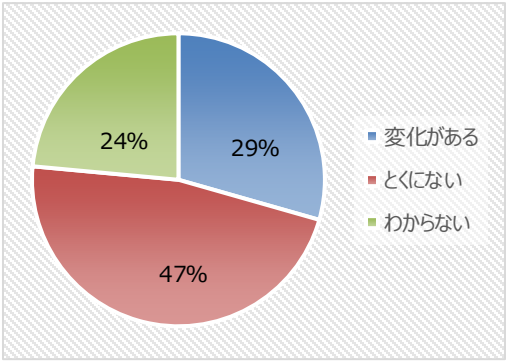
Q．部活動が地域移行されてどう思いますか。（生徒・保護者・指導者）



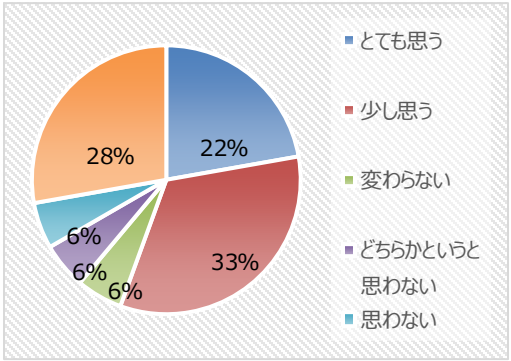

Q．地域移行によって活動の質や成果にはどのような影響がありましたか？（生徒・保護者・指導者）




Q．部活動地域移行をしたことで、生徒との関係性や関わりに変化はありますか？（教員）




Q．部活動の地域移行を進めることで、安平町の目指す公教育に近づけたと思いますか？（教員）




### ●参加者の声

**選手(good)**
**子どもの数が減ってきているため、学校単位の部活だと人数が中々揃わないところをクラブ化することによって少し改善できるのかなと思ったため、地域移行されてよいと思った。**

**保護者(good)**
**一貫した指導体制が取れる事や保護者が子どもの活動に積極的に関われる機会が生まれた。**

**保護者(more)**
**活動費や送迎など家庭で担うことが増える。**

**保護者（more)**
**送迎や練習時間、活動場所の確保の難しさがある。**

**指導者（more)**
**指導者の後継者がいるか不安**

**教員（good)**
**部活動が地域移行することによって放課後に時間が生まれ、本来の業務である授業準備等に時間を使えるようになったから**

**教員（more)**
**生徒の活動の様子や考え方など、今までの部活動のようにわからないことが多くなったと思います。**

# 2.実証内容と成果③

スポーツ庁

## アンケート結果・広報資料

【大人のスポーツDAY】




【アンケート結果】

■選手・保護者・指導者

○**ポジティブ**…地域移行は概ね好評。低学年の参加、活動時間の柔軟性、地域全体の参加増が評価されている。

○**中立**…活動の質や状況に大きな変化を感じないという意見もある。特定の問題は未解決で、現状維持と感じる人もいる。

○**ネガティブ**…コーチの事務負担や送迎支援の難しさが指摘されている。高齢コーチの技術サポートへの不慣れも課題である。

○**メリット**…多世代の参加、活動時間の柔軟性、専門的指導

○**課題**…事務作業の増加、送迎問題、金銭的負担

○**総評**…地域移行は概ね好評で、参加機会拡大や専門的指導が評価されている一方で、送迎や事務行の負担増が課題であり、解決に向けて、送迎支援や事務作業サポートおなど、運営体制の改善が必要。

■ 教員

○**ポジティブ**…多くの教員が地域移行に前向きで、「地域全体で子どもを育てる」視点や多世代交流の場としての意義や、生徒が多様な価値観に触れる機会が増えた点が評価されている。

○**中立**…移行後の効果を実感できておらず、生徒と教員の関係に大きな変化を感じていない。

○**ネガティブ**…運動機会を失う生徒への懸念や、公教育の強化につながるとは限らない。

○**メリット**…多世代交流の促進：幅広い年齢層や多様な背景を持つ指導者との交流が増加。教員の負担軽減：部活動指導から解放され、授業や他の業務に中できるようになった。

○**課題**…地域移行の効果が不明瞭、指導者の負担が懸念されている。

○**総評**…教職員の多くは、地域全体で子供を育てる意義を認めつつ、効果がまだ見えにくいと感じている。多世代交流や教員の負担軽減は評価される一方で、指導者不足や生徒の運動機会減少が課題であり、今後は、地域連携強化や指導体制の確立が求められている。

# 2.実証内容と成果④

スポーツ庁

## 参考資料（活動写真）



【新中学1年生（7年生）保護者説明会】



【指導者研修会（実技）】



【スポーツ・アートチャレンジデー①】



【スポーツ・アートチャレンジデー②】

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

| 令和２年 | | 令和５年 | | 令和６年 | 令和８年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 検討委員会の設置、検討開始 | 部活動指導員促進事業を活用 | 令和7年度末、完全移行を方針として掲げる。 | 生徒、保護者への説明 | 地域クラブ活動の開始 | 地域移行完了<br>持続可能な運営体制の整備 |

**ステークホルダー**

学校、総合型クラブ、体育協会、地域クラブ、
市長部局、町教委、総括コーディネーター

**経過**

令和２年度より検討委員会を設置し、総合型地域スポーツクラブNPO法人アビースポーツクラブを運営団体とし、安平町のスポーツ・文化環境の整備を行ってきた。はじめは、部活動指導員促進事業を活用し教員の負担軽減に努めてきたが、国で定めた推進期間（令和5～7年）に準じて、令和5年度の検討委員会の中で、平日・休日分けずに地域移行すること、また、ゴール設定をしないと先が見えないため、推進期間最終年度の令和7年度末までに完全地域移行という方針を掲げ進めてきた。また、部活動だけを切り抜き考えるのではなく、少子化や人口減少という背景もあることから、子どもから大人までのスポーツ・文化環境の構築を「できる人がいるうちに、やる機会を創る。」というテーマで部活動地域移行を進めてきた。

**実施内容**

令和5年度より、本格的に地域移行を進めてきたが、令和5年度中に2校（早来学園、追分中学校）2部活のクラブ化を実施、令和6年度においては、６部活のクラブ化および部活にはなかった新たなクラブの発足し、合計で9クラブが活動している。追分中学校においては、運動部の地域移行が完了し、早来学園の2部活（ソフトテニス、卓球）のみとなっている。こちらにおいては、生徒の活動継続の要望や指導者・支援者の発掘がない場合は、令和7年度末をもって廃止とすることが決定しているが、時間の許す限りクラブ化に向けて動いていく。

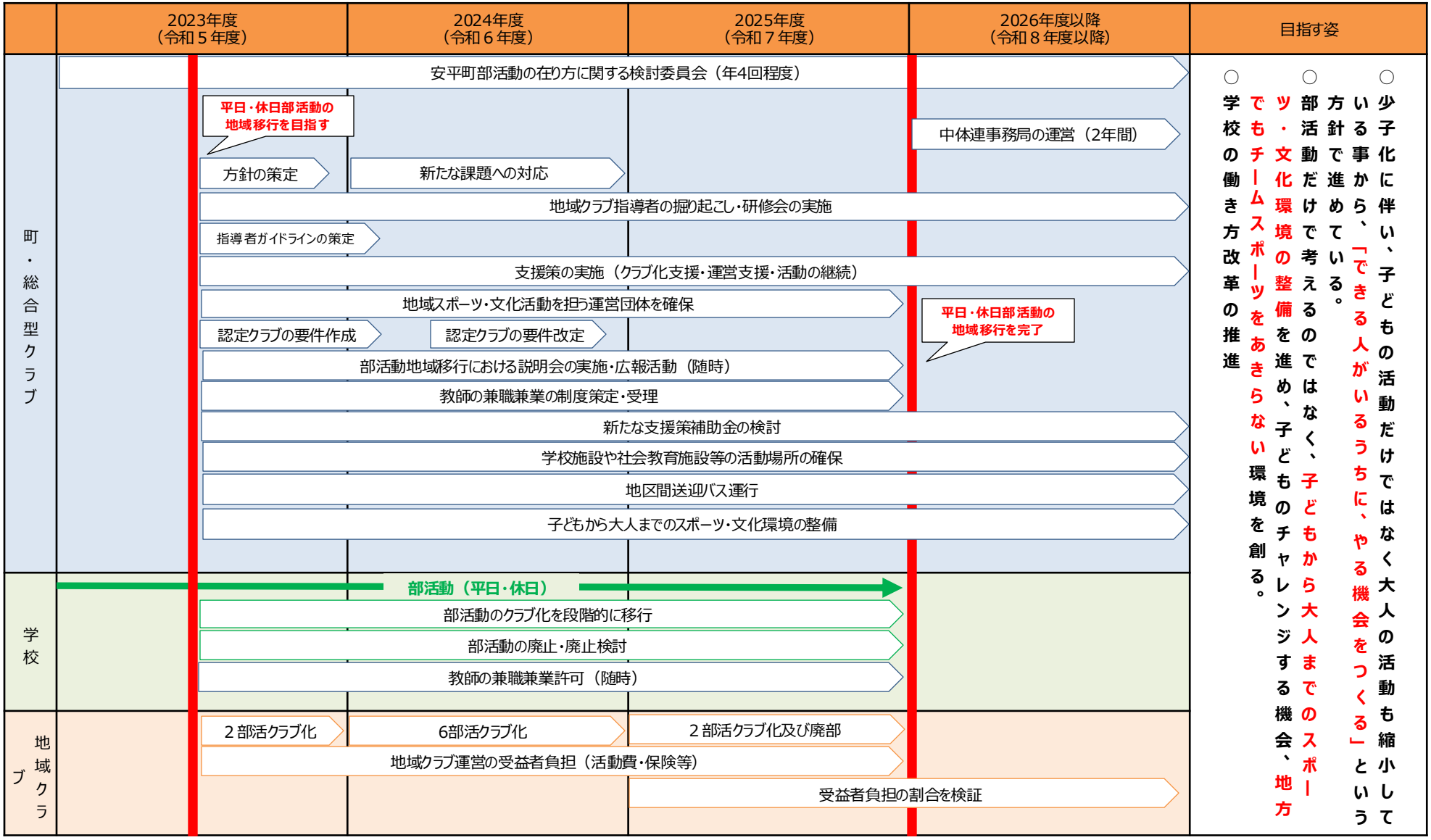
**今後の展開**

令和7年度で完全移行が完了する予定なので、地域移行完了後の持続的な地域クラブ運営に向けて、多岐にわたる財源の確保や地区間の送迎サポート、人口減少による地域クラブ員の確保に向けて、様々な取り組みを実施することで、安平町の目指している『子どもから大人までのスポーツ・文化環境の構築』を目指していく。また、中体連の事務局が令和8年度に控えており、新たな挑戦として事務局を学校ではなく、総合型クラブで担う方向で考えている。新たなモデルケースとして取り組んでいきたい。

# 3.今後の方向性

スポーツ庁

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

## 地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

# 北海道 新ひだか町


自治体名：　北海道　新ひだか町
担当課名：　新ひだか町教育委員会教育部管理課
電話番号：　０１４６－４９－００８８

# 1.自治体の基本情報

スポーツ庁

## 基本情報

| | |
|---|---|
| 面積 | 1,148 ㎢ |
| 人口 | 20,223 人 |
| 公立中学校数 | 3 校 |
| 公立中学校生徒数 | 496 人<br>（R6.10.1現在） |
| 活動数 | 20 部活 |
| 市区町村の協議会・検討会議等の設置状況 | 設置済 |
| 市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況 | 未策定 |

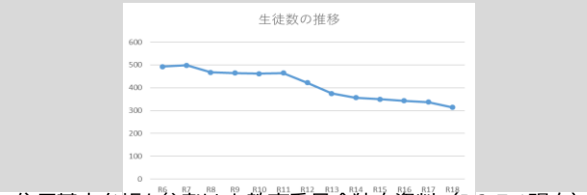
## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、当町の中学校は３校あり、スポーツ系クラブが８種目16クラブ、文化系クラブが２種目３クラブ、活動を行っている。

そのうち少子化による部員数の減少により、野球部については町内合同チーム、サッカー部と男子バレーボール部については近隣町の中学校との合同チームで活動を行っており、今後の生徒数の推移を見ると団体競技についてはますます単独での活動が難しくなっていくことが想定される。

令和６年４月から部活動の地域移行の動きを受け、女子バレーボールとソフトテニスがそれぞれ地域クラブの活動として、平日も含め完全移行を行った。

その他、部活動からの移行ではないが４種目５団体が少年団活動として、クラブ名で中体連の大会に参加をしている。




※住民基本台帳を参考とした教育委員会独自資料（R6.5.1現在）

同月に町内の児童生徒及びその保護者に対して行ったアンケートでは部活動地域移行に対する様々な不安の声が寄せられた他、地域移行を行った２団体からの要望等から様々な課題が明らかとなった。

具体的には指導者の確保や資格取得に対する支援、参加者の移動手段や経済的支援についての課題が大きく、今後、推進協議会で支援方法等について検討していく。

また、現状、地域の受け皿となる団体がない種目の部活動もあり、当面は部活動を維持しながら受入れ先の確保に努める。

| 年数 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人数 | 493 | 498 | 467 | 465 | 462 | 465 | 422 |

| 年数 | R13 | R14 | R15 | R16 | R17 | R18 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人数 | 375 | 357 | 350 | 343 | 337 | 314 | |

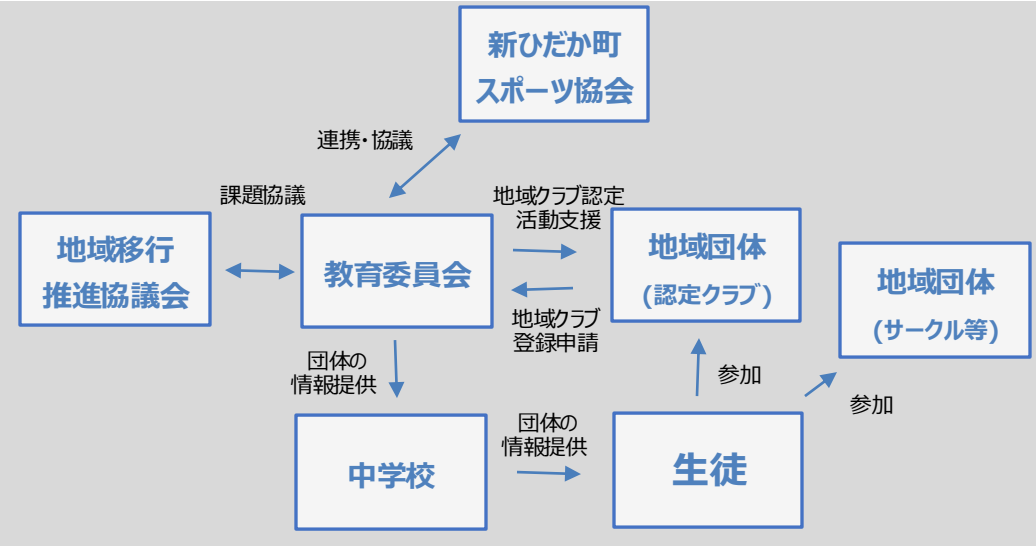
※10年後には160名以上の生徒減少が見込まれ、ますます団体競技種目の活動は難しくなると想定される

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）




●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・生涯学習課　…　部活動地域移行に関すること全般（推進協議会の開催、地域クラブの認定、地域クラブの活動支援、各種情報提供、各種団体との連携　等）

◉首長部局

・総務課　…　予算措置

## 年間の事業スケジュール

| | |
|---|---|
| 令和６年４月 | 町内の２つの部活動が地域クラブへ完全移行 |
| 令和６年４月 | 児童・生徒及び保護者に対するアンケート調査 |
| 令和６年12月 | 小・中学生が参加できる団体を把握するアンケート実施 |
| 令和７年１月 | 教育委員会と町文化団体協議会との懇談会開催 |
| 令和７年１月 | 教育委員会と町スポーツ協会との懇談会開催 |
| 令和７年２月 | 教育委員会と町スポーツ少年団本部との懇談会開催 |
| 令和７年２月 | 第３回地域移行推進協議会の開催 |
| 令和７年３月 | 第４回地域移行推進協議会の開催 |

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の運営実績

### ①全体に関すること

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中学校数 | 1 校 | 実施した地域クラブ総数 | 2 クラブ |
| ケース別クラブ数 | A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数） | | 2 クラブ（2 部活） |
| | B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等） | | 5 クラブ |
| 全体の指導者数 | 23人 | 全体の運営スタッフ数 | 62人 |

### ②各クラブに関すること

| クラブ名 | 運営団体種別 | 種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける | 実施回数 | 実施時間帯 | 参加者（学年別） | 実施期間 | 活動場所 | 指導者数 | 運営スタッフ数（他クラブと兼務） | 会費 | 大会参加方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＳＶＣ | 少年団 | 女子バレーボール | 週４回 | 17:00<br>～<br>19:00 | ３年生１名<br>２年生５名<br>１年生４名 | 通年 | 高静小学校 他 | ３人 | ６ 人 | 月会費<br>1,500 円 | 中体連：<br>地域クラブ<br>その他：<br>地域クラブ |
| 静内クラブ | 少年団 | ソフトテニス | 週５回 | 16:30<br>～<br>19:00 | ３年生６名<br>２年生１名<br>１年生１名 | 通年 | 右岸緑地公園テニスコート<br>他 | ３ 人 | １１人 | 月会費<br>1,500 円 | 中体連：<br>地域クラブ<br>その他：<br>地域クラブ |
| 静内バスケットボールクラブ | 社会体育団体 | 女子バスケットボール | 週５回 | 17:00<br>～<br>19:00 | ３年生４名<br>２年生２人<br>１年生４人 | 通年 | 新ひだか町静内体育館 他 | ６ 人 | １０人 | 月会費<br>2,000円 | 中体連：<br>地域クラブ<br>その他：<br>地域クラブ |
| 三石翔武館剣道スポーツ少年団 | 少年団 | 剣道 | 週５回 | 18:30<br>～<br>21:00 | ２年生３人<br>１年生２人 | 通年 | 三石中学校体育館<br>他 | ３人 | ６人 | 月会費<br>5,000円 | 中体連：<br>地域クラブ<br>その他：<br>地域クラブ |

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の運営実績

### ②各クラブに関すること（２）

| クラブ名 | 運営団体種別 | 種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける | 実施回数 | 実施時間帯 | 参加者（学年別） | 実施期間 | 活動場所 | 指導者数 | 運営スタッフ数（他クラブと兼務） | 会費 | 大会参加方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 静内剣心スポーツ少年団 | 少年団 | 剣道 | 週３回 | 18:00<br>～<br>20:30 | ３年生３人<br>２年生４名<br>１年生１名 | 通年 | 新ひだか町武道館他 | ５人 | ６人 | 年会費<br>10,000 円 | 中体連：地域クラブ<br>その他：地域クラブ |
| 静内柔道スポーツ少年団 | 少年団 | 柔道 | 週２回 | 18:30<br>～<br>20:00 | ２年生１名<br>１年生１名 | 通年 | 新ひだか町武道館 | ２ 人 | １１人 | 月会費<br>1,000円 | 中体連：地域クラブ<br>その他：地域クラブ |
| 静内水泳スポーツ少年団 | 少年団 | 水泳 | 週４回 | 17:30<br>～<br>19:30 | ３年生３名 | 4月~12月<br>(温水プール開館期間) | 新ひだか町静内温水プール | １ 人 | １２人 | 月会費<br>1,000円 | 中体連：地域クラブ<br>その他：地域クラブ |

※少年団等における運営スタッフについては明確な区分がなく、スタッフ及び役職のある会員（保護者等）の合計数としている。

# 2.実証内容と成果

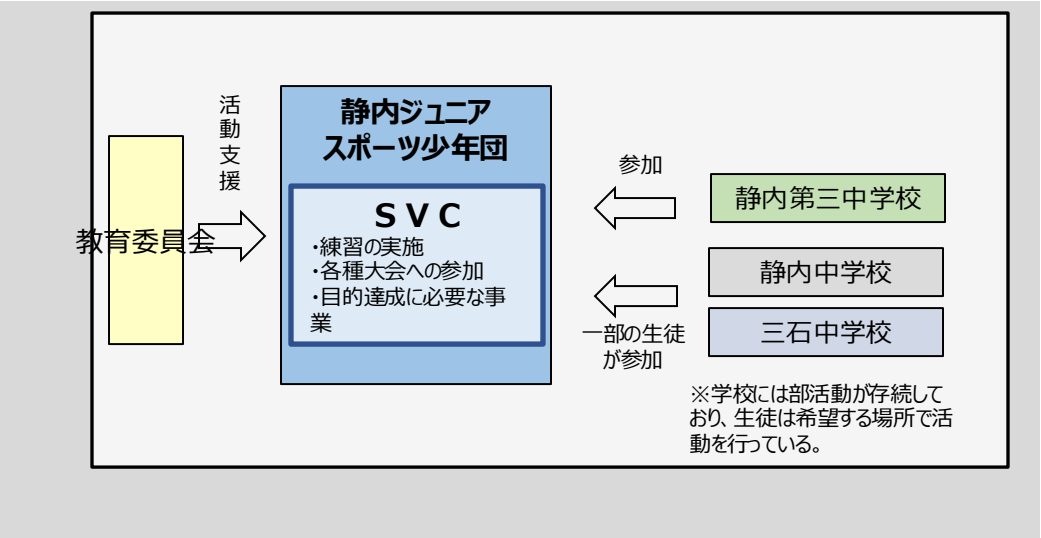
スポーツ庁

## 主な取組例

### ●ＳＶＣ　活動概要

| | |
|---|---|
| 地域クラブ活動で実施した種目 | 女子バレーボール |
| 運営団体名 | 静内ジュニアスポーツ少年団 |
| 期間と日数 | ４月１日 ～３月３１日<br>週４回程度 |
| 指導者の主な属性 | 自治体職員（JSPO　コーチ１） |
| 活動場所 | 高静小学校　体育館　他 |
| 主な移動手段 | 徒歩、自転車、父母の送迎 |
| １人あたりの参加会費等（年額） | 18,000 円 |
| １人あたりの保険料 | スポーツ安全保険加入<br>生徒１人あたり：800円/年 |

### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）




### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●代表　１名

役割：会を代表し、全体の調整、最終決定、各種登録事務を行う。

●副代表　２名

役割：宿泊手配、各種事業企画、保険加入手続き、相談、調整を行う。

●会計　１名

役割：会の収支業務の処理及び管理を行う。

●監査　１名

役割：会の会計を監査する。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
**イ：指導者の質の保障・量の確保**
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
**ク：その他の取組**

スポーツ庁

## 取組内容

### ●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保　／　ク：その他の取組

#### 取組事項（イ）

○指導者に対する謝金を支出し、継続した指導者の確保に努める。
○指導者確保のため、新たに指導者になりうる人材への資格取得の促進及び中学生指導に関する研修会の実施。
○地域移行推進協議会における指導者確保の検討に資するように、地域の指導者や資格保有者の情報と、地域クラブ活動への参加意向について情報収集する。

#### 取組事項（ク）

○地域移行推進協議会を開催し、アンケート結果や、今年度地域移行した団体からの成果・課題・要望等を踏まえ、効果的な活動体制の整備及び支援の方法について分析検証する。

#### 取組の成果（イ）

○当初計画では、４月に地域移行した２種目の団体における継続した指導者確保の効果的な支援策について検証するため、指導者に対し謝金を支出する予定だったが、団体側との調整において、個人への謝金ではなく、団体への活動費としての支援を求められた。団体への再々々委託も検討したが、当町で地域移行の受け皿となっている団体は、他自治体のような総合型スポーツクラブのような形態ではなく地域のスポーツ少年団であり、複雑な事務や会計処理を行える体制ではないことから、再々々委託も断念することとなり、本事業による支出ができず、取組計画を取り下げることとなった。
○指導者確保のための研修会については、各種スポーツ大会のオフシーズンである１２月以降の研修会の開催を計画していたが、計画していた講師の都合等により調整がつかなくなり、委託契約期間内での実施ができなかった。
○地域の指導者に関する情報については、各種団体等との意見交換の場を通じて収集することができたため、今後の協議会における検討の資料として整理している。

#### 取組の成果（ク）

○当初計画では協議会を複数回開催して協議をすすめる予定だったが、開催に向けての課題の把握や取りまとめに時間を要し、事業期間中は１回の開催となった。
○今年度実施した協議会においては、これまでの国の動向の確認や、児童生徒、保護者アンケート結果の分析、今年度地域クラブ活動へ移行した活動から、改めて今後協議していくべき課題について整理することを確認し、次回以降、具体的な内容について協議を深めていくこととなった。

#### 今後の課題と対応方針

○指導者確保のための支援策については、継続した団体活動のためにも財政的な支援は必要と考えることから、今年度の取組で明らかとなった課題を改めて整理し、具体的な支援対象（団体・指導者等）の基準や方法を推進協議会で検討する。その上で、町による助成制度の創設と予算措置について要望をしていきたい。
○指導者に対する研修会については、次年度において、現指導者に限らず、指導に関心のある一般町民を対象として、今後の地域スポーツクラブ活動への裾野を広げるための内容に見直し、町スポーツ協会等とも連携をとりながら実施することとして計画する。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
**ク：その他の取組**

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　ク：その他の取組　平日の移行**

### 取組事項

○改革推進期間後を見据えた取組を推進する観点から、休日だけではなく平日も含めた地域スポーツクラブ活動への移行に向けた取組等を実施し、課題の抽出や課題解決策の検討等を行った。

### 取組の成果

○今年度、移行した２つのクラブ（女子バレーボール、ソフトテニス）については、休日に加えて、平日の全ての学校部活動を地域クラブ活動に移行した。

### 指導者の属性や配置の工夫

・指導者の属性（指導者資格）

自治体職員（JSPO　コーチ１）　　会社員(JSPO スポーツコーチングリーダー)
団体職員（JSPO スタートコーチ）　　保護者（今後資格取得予定）

・配置の工夫

女子バレーボール指導者の１名が自治体職員で、部活動の地域移行に関して職場の理解があり、休暇を取りやすい環境のため、時間休暇を取得し指導にあたった。

### 一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

○完全移行したことにより、元部活動顧問との連携は特段行っていない。

### 今後の課題と対応方針

○休暇を取得しての指導であることから、指導者の負担が大きい。また、その指導者が不在の時などの確保が課題となった。

→　自治体職員や団体職員の職場に、柔軟な勤務体制の導入等の働きかけを行い、休暇取得によらない指導時間の確保を目指す。また、指導者が来るまでの間の自主的な活動や、大学等と連携した遠隔指導の導入等による指導者の負担減について研究することとしたい。

# 2.実証内容と成果①

スポーツ庁

## 総括・成果の評価・今後に向けて

### ●総括

年度当初に予定していた様々な事業計画について、地域移行推進協議会開催にあたっての事務作業の遅れや、地域移行を行った団体の要望に応えられる調整がつかず、指導者の質の保障・量の確保に関する取組がほとんど行えなかった。

部活動からの地域クラブへの移行に関しては、今年度２種目２団体で実施し、それらの団体からの意見や要望等から移行後の課題を収集した。
また、児童、生徒及びその保護者に対し地域移行に関してのアンケートを実施し、持っている不安や要望等も把握することができた。

協議会以外では、教育委員会と文化団体協議会やスポーツ協会、スポーツ少年団本部との個別の懇談会の実施や、１年を通して、スポーツ団体の関係者と情報交換を行い、それぞれの立場から感じる地域クラブ活動への移行に係る課題や意見について情報収集した。

### ●成果の評価

当初計画した内容の多くを、事務の遅れや、調整がつかなかった等の理由により実施できなかったことは深く反省すべき点である。
今年度の団体との調整や意見交換の過程で、行政側の考えと団体側の要望に乖離があることや、実際に地域クラブとして活動した団体においては、様々な課題等を把握できたことから、これらについては次年度以降の地域移行推進協議会での協議課題として整理し、町としての方向性や、各論の検討を進めていく材料となった。

### ●今後に向けて

今後の地域移行推進協議会において、今年度の取組で明らかとなった諸課題や、団体からの要望、アンケートの意見等について協議を深め、「部活動地域移行ガイドライン」の策定を通じて、地域の実態に合った地域移行の形について協議、研究をしていきたい。
また、部活動から地域活動への移行について理解を深めるため、保護者説明会の実施や広く町民等への情報提供を行って行くこととしたい。

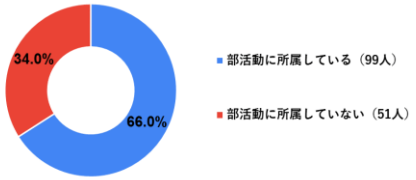
# 2.実証内容と成果②

スポーツ庁

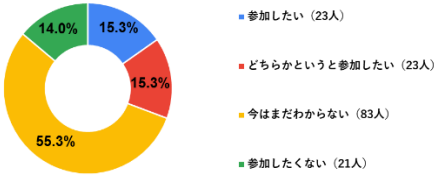
## アンケート結果・参加者の声（中学生対象アンケート）

### ●アンケート結果

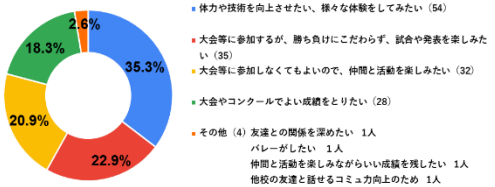
Q.現在、中学校の部活動に所属していますか？



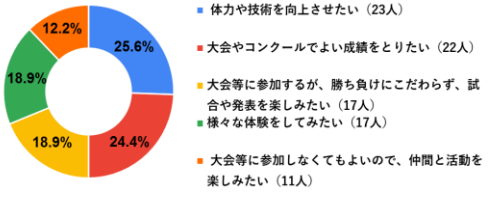

Q.地域クラブの活動へ参加してみたいですか？



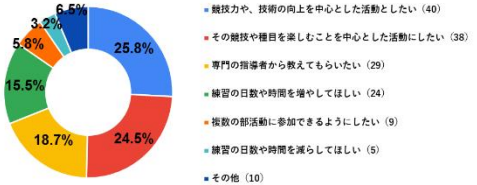

Q.部活動へ求めるものとして、あなたの考えに近いものはどれですか?




Q.地域の団体活動に、どのような活動を希望しますか。




Q.部活動へ求めるものとして、あなたの考えに近いものはどれですか?




【アンケート概要】
・アンケートの回答率は30.61% (150/490)
・回答者の66%が部活動に参加している。
・部活動へ好成績を求める割合は約23%、様々な体験をしたい。仲間とその競技を楽しみたいという声が多く、地域移行後の活動に対しても同様の傾向が見られた。
・自由回答では、地域移行に多くの不安点があげられ、特に現在の部活動の継続を希望する声が多かった

### ●参加者の声

**中学生（３年生）**
・今の学校の顧問の先生がとてもいい指導をしてくださるので、地域移行後に指導が受けられなくなるのか不安

**中学生（２年生）**
・親の負担から、運動部に所属したくても出来ない子供は増えると思います。

**中学生（１年生）**
・中学校でやるから、送迎が必要なく出来ているが、地域移行すると距離的に行けないことなどがあると思うので不安です。

**中学生（２年生）**
・部員が少ないので、思うように練習ができない。3年生が引退した後、部活がどうなってしまうのか不安です。

**中学生（２年生）**
・他校と合同になったり、知らない指導者に教わるのが不安です。

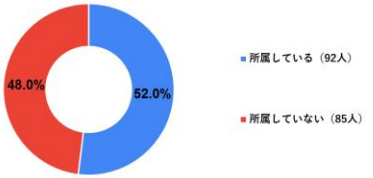
# 2.実証内容と成果②

スポーツ庁

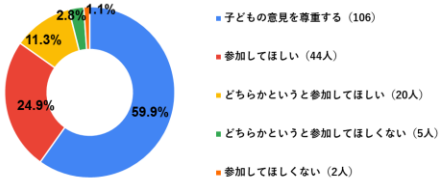
## アンケート結果・参加者の声（保護者対象アンケート）

### ●アンケート結果

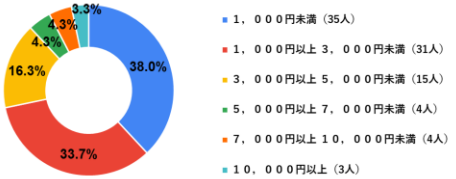
Q.現在、お子さんは中学校の部活動に所属していますか？



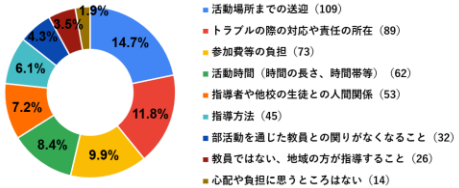

Q.子どもに地域での活動に参加してほしいですか？



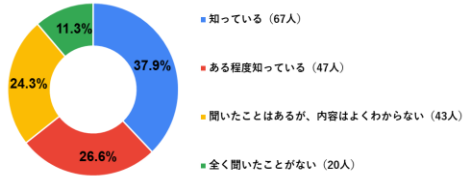

Q.部活動に係る１ヶ月の費用はどのくらいですか？




Q.部活動から地域への活動に変わった場合の心配や負担は何ですか？




Q.部活動の地域移行を知っていますか？




【アンケート概要】
・子どもに地域活動に参加してほしいと多くの保護者が考えているものの、地域移行に関し、活動場所までの送迎や、トラブルの対応、参加費用の負担等を心配している声が多い。
・自由回答では地域移行に対し不安な点が多く、現在の部活動を維持して欲しいという意見が多く、地域移行の取り組みの必要性について十分に説明を行い理解を求めることが重要

### ●参加者の声

**中学１年生の保護者**
・顧問の先生の競技への熱量が学校によってかなりの差があるため少しでも早く競技を知っている人による他校とまとめての練習を望みます。隣の学校でも顧問の意向で学校によって参加できる大会の回数も格差があるのが現状です

**中学１年生の保護者**
・地域移行の場合、指導者の都合上活動時間が遅くなり体調、勉学に影響がでるのは不安です。また、クラブチーム的なものだと部活動と違い金額的に厳しいので我慢させざるを得ません。

**中学２年生の保護者**
・現在も部活には属せず、地域のクラブチームに入っているため特に何も無いが、送迎など指導者にしてもらえていてとても助かっているが
人数が増えた場合それが難しくなるのではないか不安に感じる。スクールバスなど貸し出したり送迎してくれるなら保護者の負担も少なくなるのでは。

**中学3年生の保護者**
・(地域移行は）校内活動の延長程度で良いと思っています。

# 2.実証内容と成果④

スポーツ庁

## 参考資料（SVC活動写真）



練習風景（コアチューニング）



大会参加（北海道ジュニアバレーボールキャンプ）



大会参加（日高地区秋季大会）【優勝】




団員募集ポスター

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和５年

協議会設置、検討開始 ▶ ２つの種目について１つの中学校より少年団に部員受入れの相談 ▶ 学校及び保護者、少年団との調整 ▶ 令和６年 地域クラブ活動の開始 ・女子バレー ・ソフトテニス

**ステークホルダー**

学校、スポーツ少年団、町教育委員会

**経過**

国の部活動の地域移行推進期間に併せ、令和５年度に町内中学校校長、部活動顧問、町スポーツ団体等、教育委員会で組織する地域移行推進協議会を設立し、今後の部活動の在り方や、地域移行への体制整備等についての協議を行うこととした。

それと同時期に、町内の１つの中学校より、２つの種目について少年団に対し部員の受入れについて相談があり、学校、保護者、少年団で協議を行った。

**実施内容**

令和６年度より相談のあった中学校の女子バレーボール及びソフトテニス部が廃部となり、部員全員が少年団に属する中学生のクラブ（地域クラブ）で活動をしていくこととなった。この地域クラブには町内全ての中学生が参加可能となっている。

**実施にあたって生じた課題**

女子バレーボールについては他校で部活動が存続し活動していることから、部活動の活動に影響が出ないよう、地域クラブと学校間で情報交換が行われ、現在の部員については部活動を継続、新１年生について希望する場所での活動を選択できるような調整がされた。

ソフトテニスについては部活動実施時より外部講師として少年団の指導者が指導を行っており、そのままスムーズな地域移行が行われる想定だったが、保護者及び少年団と学校との情報共有が一部十分ではなく、協議会で体制整備や費用面での取り決めを協議する前での移行であったため、団体側で中学生の受入れに伴う初期経費やこれまで学校負担だった登録料の負担があり、これらについて保護者より不満が出ていた。

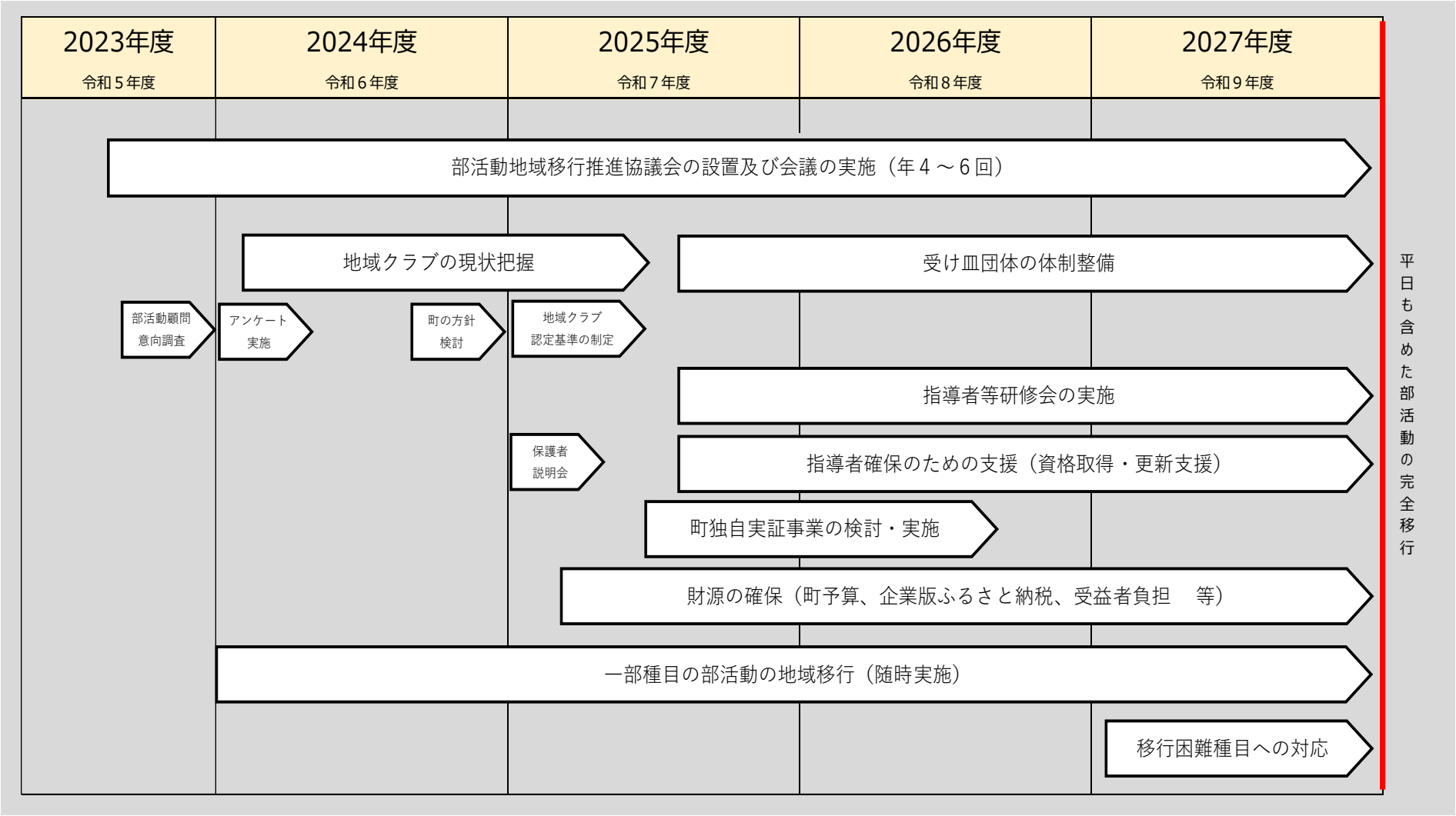
**今後の展開**

団体への支援については今後の協議会で検討、協議されることとなっており、今回の地域移行を行った団体からの課題や要望を材料として、更なる種目の地域展開に向けた環境づくりを行う。

# 3.今後の方向性

スポーツ庁

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

## 地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

# 北海道中札内村


自 治 体 名 ： 北海道中札内村
担 当 課 名 ： 中札内村教育委員会
電 話 番 号 ： ０１５５-６７-２９２９

# 1.自治体の基本情報

スポーツ庁

## 基本情報

| | |
|---|---|
| 面積 | 292.58 ㎢ |
| 人口 | 3,831 人 |
| 公立中学校数 | 1 校 |
| 公立中学校生徒数 | 123 人 |
| 部活動数 | 4 部活 |
| 市区町村の協議会・検討会議等の設置状況 | 設置済 |
| 市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況 | 策定済 |

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、本村の運動部活動は、軟式野球部、サッカー部、ソフトテニス部、女子バレーボールの4つが活動している。

「本村は、比較的都市部への移動距離が近いことも鑑み、団体スポーツでは保護者の送迎によりクラブチームに通う生徒や、個人スポーツにおいても同様に少年団から継続した活動等から、従来より野球部とサッカー部において近隣町村とによる合同チームによる活動を行っている。」また、昨今の出生数を見ると団体スポーツの存続は危ぶまれることから、南十勝全域による合同チームも視野に入れていくことが喫緊の課題である。

令和５年度より部活動地域移行コーディネーターを配置、部活動地域移行推進協議会委員14名を委嘱しながら部活動の地域移行の実施と持続可能な活動の環境整備の推進に努めている。

令和6年度においては、女子バレーボール部とソフトテニス部に外部指導者を導入、剣道少年団は地域スポーツクラブ活動としてスタート。またバドミントン少年団では、保護者が中心となって少年団を含めた9年制を目指した環境整備を進めている。更には、陸上競技においても同様に9年制を目指したNPO法人化を目指し準備を進めている。

■児童数

１年生　３０名
２年生　２５名
３年生　２９名
４年生　３３名
５年生　３８名
６年生　４２名

■生徒数

１年生　４７名
２年生　３３名
３年生　４３名

■出生数

２０１９年　２６名
２０２０年　２５名
２０２１年　２９名
２０２２年　２４名
２０２３年　２０名
２０２４年　２０名

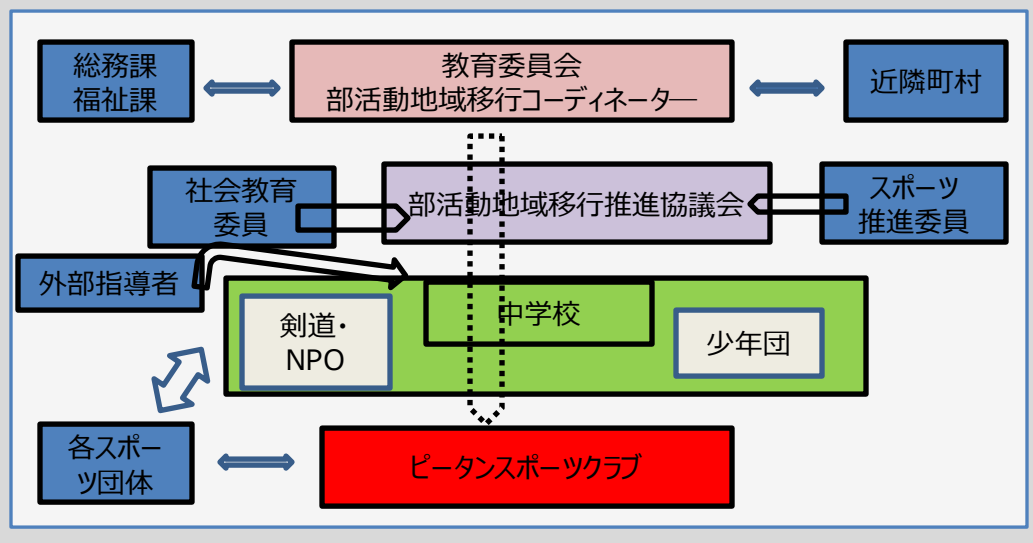
出典：令和7年１月現在

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）




●行政組織内での役割分担

◉教育委員会
部活動地域移行コーディネーターを中心として、休日と平日を合わせた地域移行の推進、少年団を含めた「9年制」の体制構築、近隣町村と合同活動の展開を目標に取組を実施する。最終目標としては、総合型地域スポーツクラブ「中札内ピータンスポーツクラブ」による運営の一本化を視野に入れ事業展開する。
◉首長部局
（総務課）広報紙を活用した村民への周知
（福祉課）健康寿命の延伸を目標にした「健康ポイント事業」を行っており、獲得したポイントの一部を寄附として、令和7年度より寄附の一部をスポーツ少年団指導者への謝金等として活用を検討。

## 年間の事業スケジュール

推進計画表（令和６年度版）より

| | |
|---|---|
| 令和６年４月 | ■推進協議会の強化（補欠）<br>■剣道少年団「地域クラブ活動（少年団９年制）スタート」<br>■バドミントン少年団「地域クラブ活動（少年団９年制）基盤整備」に向けて<br>■文化部活動ボランティア応援団事業スタート<br>■女子バレーボール部外部指導者導入準備 |
| | ■補欠委員　定例会議議案提出 |
| ５月 | ■部活動講師派遣事業ウォーミングアップ体験レッスン |
| ６月 | ■第１回推進協議会 |
| ７月 | ■第１回研修会<br>■スポーツ指導者講習会 |
| 令和７年１月 | ■第２回研修会 |
| ２月 | ■第２回推進協議会 |

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の運営実績

### ①全体に関すること

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中学校数 | 1 校 | 実施した地域クラブ総数 | 1 クラブ |
| ケース別クラブ数 | 小中学生を対象とした「剣道少年団」を「９年制」とし中学生を地域クラブ活動して登録 | | 剣道少年団 |
| | | | |
| 全体の指導者数 | ４ 人（有資格者） | 全体の運営スタッフ数（協力員） | ２ 人 |

### ②各クラブに関すること

| クラブ名 | 運営団体種別 | 種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける | 実施回数 | 実施時間帯 | 参加者（学年別） | 実施期間 | 活動場所 | 指導者数 | 運営スタッフ数（他クラブと兼務） | 会費 | 大会参加方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 剣道少年団 | 少年団<br>９年制 | 剣道 | 小学生<br>週３回<br>中学生<br>週４回 | 17:30<br>～<br>19:00 | 未就学1名<br>小学生6名<br>中学生10名 | 通年 | 村民体育館<br>中学校武道場 | ４ 人 | ２ 人 | 団 費<br>年間 / 人<br>6,000円 | 中体連：<br>地域クラブ |

### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

- ●剣道段位・級位審査会参加
- ●剣道大会・中体連大会参加
- ● 他少年団との合同稽古参加
- ● 少年団交流会
- ●新年鏡開き
- ●納会（記念品贈呈・集合写真・団体戦）

# 2.実証内容と成果

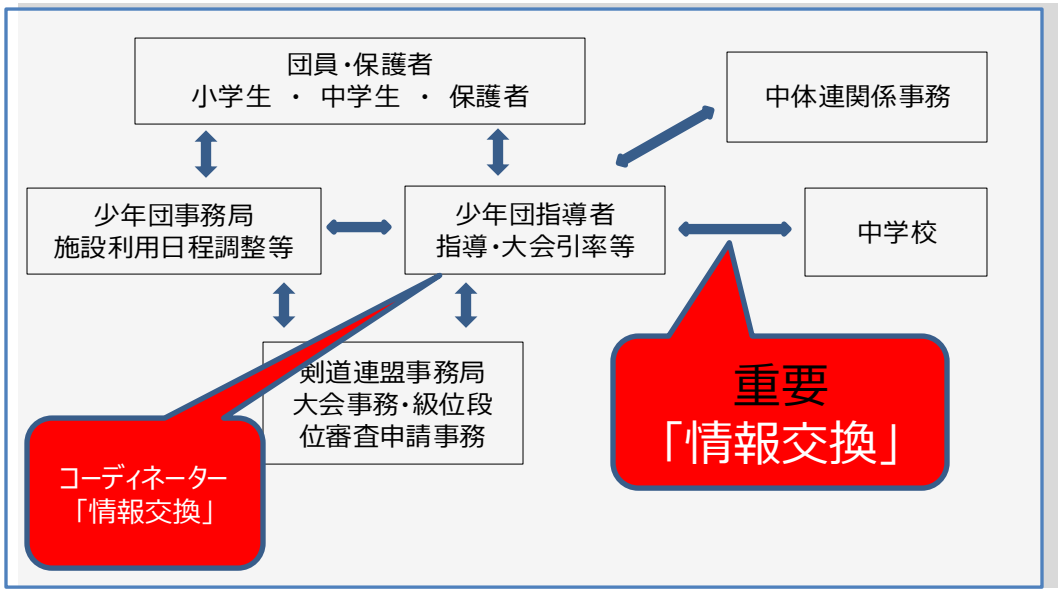
スポーツ庁

## 主な取組例

### ●剣道少年団　活動概要

| | |
|---|---|
| 地域クラブ活動で実施した種目 | 剣道 |
| 運営団体名 | 剣道少年団（地域クラブ活動） |
| 期間と日数 | ４月～３月<br>小学生　毎週３回<br>中学生　毎週４回 |
| 指導者の主な属性 | 有段及び有資格者 |
| 活動場所 | 村民体育館/中学校武道場 |
| 主な移動手段 | 保護者送迎 |
| １人あたりの参加会費等（年額） | 年間　6,000円 |
| １人あたりの保険料 | スポーツ安全保険<br>生徒１人あたり：800円/年<br>指導者１人あたり：1,300円/年 |

### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）




### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

指導体制：剣道連盟の有段者を派遣

- ●代表指導者：五段、旧認定員、元教員（中学校体育）、村内在住
- ●指導者A：剣道四段、スポーツコーチングリーダー資格、団員保護者、村内在住
- ●指導者B･C：剣道三段、スタートコーチ資格、団員(元)保護者、村内在住
- ●協力員A･B：剣道五段、元保護者、有資格者、村外在住
- ●後援会（育成母集団）

# 2.実証内容と成果

**ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備**
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備**

### 取組事項

〇部活動地域移行コーディネーター派遣

1）十勝管内部活動地域移行担当者ミーティング
【実践発表】
主催：十勝教育局

2）更別村コミュニティ・スクール委員会及び学校運営協議会合同研修会 【講演】
主催：更別村教育委員会

### 取組の成果

1）十勝管内部活動地域移行担当者が一同に会し、「中札内村の取組を通して」と題し、これまでの取組から「学校と地域の融合」、「学校教育・社会教育さらには地域住民が協働して取組むこと」の重要性を述べたことで、各市町村における今後の活動に生かす一助となった。

2）既に合同による部活動として取組んでいる隣村において、中札内村の取組を紹介。部活動地域移行は、地元の大人たちによる地元の子どもたちのための取組み、２村で議論する場の必要性を説明したことで、２村における部活動の環境整備への足掛かりとなった。




### コーディネーターの具体的な動きの実績

【部活動地域移行コーディネーター】
・主催者側と適時打合せを重ね、取組を提供した。
・主催者側が要望する情報について打合せを行い、今後広域連携に向けて二村（中札内村・更別村）で協議が重要であることを訴えた。

### 今後の課題と対応方針

・二村（中札内村・更別村）において既に野球部は合同チームとして活動中。今後野球部のみに限らず、少年団も含めた中長期的な展望と、二村に限らず南十勝広域による活動も視野に入れていくことが必要である。

# 2.実証内容と成果

**ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備**
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

### ●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**取組事項**

〇部活動地域移行推進協議
　会議の開催（2回）
　協議内容
　　・推進計画
　　・取組と方向性
　　・研修会　/　・意見交換
〇研修会
　第１回：7月22日
　　・地域連携の中間報告と
　　　意見交換
　第2回：2月20日
　　・地域連携の活動報告

**取組の成果**

〇推進協議会委員14名を委嘱し年2回、4グループによる意見交換を実施し、中体連とクラブチームの相違、広域を含めた指導者確保、少子化に対応した環境整備等の重要性が導き出された。
〇推進協議会と教育委員会共催による研修会は、村民を対象に2回開催した。
　第1回は、主に少年団9年制の取組を紹介、第2回目では外部指導者による活動報告と、保護者が中心となり環境整備に努める少年団9年制を目指した取組が紹介され、児童・生徒の為に取組む姿が、意義・課題などが共有された。




**コーディネーターの具体的な動きの実績**

【部活動地域移行コーディネーター】
・推進協議会長、副会長と適時打合せを行い、審議内容を調整した。
・各委員や参加者より意見聴取するため、小グループ制を提案した。
・少年団、部活動を適時巡回し、関係団体との連絡調整に努めた。

**今後の課題と対応方針**

・推進協議会は、引き続き年2回開催する。
・研修会は、引き続き年2回開催。
・少年団、部活動を適時巡回し、関係団体との連絡調整を引き続き実施していく。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
**イ：指導者の質の保障・量の確保**
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

### ●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

**取組事項**

・指導者確保の支援
・少年団登録団体に対し、指導者手当を支給し、確保に努める。
・少年団指導者資格取得、更新費用スタートコーチ登録料及び受講料を助成した。
・部活動において、専門的技術に要する外部指導者を任用した。

**指導者手当支給団体**

スポーツ少年団7団体
・野球少年団
・サッカー少年団
・バレーボール少年団
・水泳少年団
・バドミントン少年団
・剣道少年団
・スケート少年団

**指導者資格・更新費用等助成補助内容**

〇スタートコーチ講習参加料
　サッカー少年団　1名
　バドミントン少年団　2名
〇スタートコーチ登録料

〇スタートコーチ更新費用

**外部指導者登録状況**

〇外部指導者設置要綱制定
・職務：実技の指導及び助言
・大会等の指導及び助言
　女子バレー部　1名
　ソフトテニス部　1名

**取組の成果**

【スポーツ少年団補助金】
・村内スポーツ少年団7団体に対し指導者手当を交付したことで、団として指導者に対する負担軽減を図ることができた。
・指導者資格・更新費用を助成したことで、指導者に対する負担軽減と確保に努めた。
・外部指導者を導入したことで、部活動における指導体制の充実と、教員の負担軽減に努めた。



# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
**イ：指導者の質の保障・量の確保**
ウ：関係団体・分野との連携強化
**エ：面的・広域的な取組**
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保② / エ：広域的な取組**

### 指導者講習会「バドミントン」

〇目的：専門的知識を有する指導者を招聘し、コーチングの研鑽に努める。（講師：十勝バドミントン協会員）
〇実技：指導者講習会
〇情報提供
テーマ　「小中学生がスポーツをするうえで知っておきたい栄養、休息、トレーニングの話など」
内　容　団体の活動を通じながら指導方法を学ぶ
対象者　指導者・保護者・見学を希望する方
〇特徴
・団員の活動を通しながら、指導者が指導方法を学ぶ
・情報提供は、保護者も参加できる内容

### 指導者講習会の参加実績

| | バドミントン | 野　球 |
|---|---|---|
| 開 催 日 | 7月20日（土） | 11月16日（土） |
| 参加者数 | 一般16名<br>団員16名 | 大人15名<br>小中学生18名 |
| 指導者数 | 会員3名 | 会員4名 |

### 指導者講習会「野球」

〇目的：専門的知識を有する指導者を招聘し、コーチングの研鑽に努める。（講師：十勝管内町村少年野球指導者協議会員）
〇テーマ：やきゅうしようぜ！
〇実技：小中学生対象とした実技指導
〇情報提供：小中学生～講話・ワークショップ
保護者～講話
〇特徴
・テーマを設定、キャッチフレーズを設けた
・小中学生の活動を通しながら、指導者が指導方法を学ぶ
・情報提供は、保護者も参加できる内容

### 今後の課題と対応方針

・バドミントン協会は、指導を目的に設立。自らコーチングに対する研鑽に努めるとしていることから、講習会は毎年開催。
・野球人口が減少傾向にあることを鑑み、近隣町村と合同で開催し、課題等を共有した。
・バドミントンや野球に限らず、他の競技全域を視野に開催する。
・バドミントンでは、協会を中心に指導体制が充実したことで、団員も増加、育成会が中心となり村内大会開催を視野に検討していく。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
**ウ：関係団体・分野との連携強化**
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化**

### 取組概要

多種多様なスポーツ活動への環境整備を目指して

〇ピータンスポーツクラブ一本化を目指した事業

【交流の杜まつり2025】

〇スポーツリズムトレーニング

講師：十勝スカイアーススポーツ株式会社

対象：小学生19名

〇親子で楽しく　からだづくり

講師：音楽セラピー樹音

対象：2歳～年長　親子9組（21名）

### 取組の成果

・ピータンスポーツクラブとの一本化を視野に、多種多様なスポーツができる環境整備への一助となった。

・本村と「包括連携企業」との事業により、連携強化が図れた。

・当日は、ピータンスポーツクラブ役員も受付から実技にも参加することで、クラブ運営に積極的に関わりことができ、子どもの交流ができた。

・親子のコミュニケーションが図れた。




### 参加実績

・開催日：2月24日（月・祝）

・参加人数：スポーツリズムトレーニング　小学生19名
　　親子で楽しく　からだづくり　親子9組

・開会式終了後、「ラジオ体操」実施

### 今後の課題と対応方針

・音楽に合わせたステップや手足を連動させた動きは、児童生徒にとり重要であることから、今後少年団本部との連携事業として取り入れてく必要がある。

・親子を対象とした事業を、今後継続を視野に検討を重ねる。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
**オ：内容の充実**
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　オ：内容の充実**

### 取組概要

生徒の意見を尊重し、多様なニーズへの対応

【ウォーミングアップ　体験レッスン】
内容：「ウォーミングアップ」
　　「トレーニングメニュー」など
　　各競技ごとの希望に合わせた内容
講師：村内在住（パーソナルトレーニング
　　スタジオ経営・指導者）
時間：部活動の時間帯
対象：部活動に参加する生徒

### 取組の成果

・令和5年度開催したアンケート結果より、中学生のお意見として「生涯楽しめるスポーツ活動をしたい」との意見を受けて実施した「からだ塾」をベースに事業の名称を変え、継続した事業が実施できた。
・地元有資格者の活用から、地域と学校との連携が図れた。
・生徒が自主的、自発的に習得できる機会が提供できた。
・事業を通して、地域の指導者の協力が重要である旨顧問から伺うことができた。




### 参加実績

・開催日時：5月9日（木）　16時～17時
・開催場所：中学校グラウンド
・参加対象：野球部員6名/顧問1名
・顧問より、開催希望在り

### 今後の課題と対応方針

・年間を通し、実施可能な時期の検討。
・オフシーズンやシーズン初めとした時期の実施。
・村内在住有資格者の継続活用。
・本事業趣旨、自主的な習得スタイルの継続。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
**キ：学校施設の活用等**
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　キ：学校施設等の活用**

### 取組事項

【学校開放事業等の積極的な活用】

〇趣旨

中札内村における生涯学習の振興のため、学校施設を学校教育に支障のない範囲で学校施設を開放し交流の場とする。

〇開放施設（小中学生対象とした主な利用団体）

・中札内小学校（屋内運動場体育館）
・上札内小学校（屋内運動場体育館）
・中札内中学校（屋内運動場体育館）

### 取組の成果

・学校開放事業と中札内村所有の体育施設（中札内交流の杜、ファミリースポーツセンター及び、屋内多目的施設）を有効活用することで、一年を通した交流の場として継続的な開放がなされた。

・屋内多目的施設を活用することで、屋外競技（野球少年団、サッカー少年団、陸上競技）も一年間を通し、安定した活動ができた。

・中学校体育館において、部活動時間帯が重複した場合、一時的に体育施設を活用することで、安定した活動ができた。

### 学校開放事業の開放実績

| 中札内小学校 | 上札内小学校 | 中札内中学校 |
|---|---|---|
| 〇利用団体・回数<br>・バレーボール少年団　97回<br>・バドミントン少年団　4回<br>・陸上競技　3回<br>・サッカー少年団　17回 | 〇利用団体・回数<br>・バドミントンクラブ　70回 | 〇利用団体・回数<br>・剣道少年団　25回 |

注：１月末日数・利用団体～小中学生対象団体

### 今後の課題と対応方針

・今後も引き続き、交流の場として一年間を通して安定した継続的な学校開放事業を実施していく。
・中札内村所有の体育施設と併用しながら、安定した活動ができるよう継続していく。

# 2.実証内容と成果



## 取組内容

**●取組項目名　ク：その他の取組　少年団を含めた「9年制」**

### 取組事項

〇バドミントン少年団が抱えていた指導者不足について、部活動地域移行コーディネーターがサポートし、愛好者を中心としたバドミントン協会が令和５年度に設立された。協会の設立により指導体制が整ったことで、団員が増加。現在、団員が中学生になってもバドミントンを続けていける環境を、地域クラブ活動を視野に入れながら保護者が中心となって整備中。

### 取組の成果

〇技術指導を目的とした協会が設立したことで、指導者が充実、更に指導内容が確立された。

〇指導内容の確立と同時に、近隣町村からの入団者も加わり団員が増加した。

〇指導者、団員及び保護者（育成会員）の充実と増加に伴い、活動が活性化された。

〇協会設立の目的でもある、とコーチングに対する研鑽に努めるとしたことから、指導者講習会を開催しコーチングスキルの向上に努めることができた。

〇村民を対象としたバドミントン大会の運営に協力、バドミントンの裾野を広げる活動もできるようになった。

### 中札内バドミントン協会

〇目的

・会員一人ひとりの意見を尊重し共有する

・団員への技術指導

・指導者確保

・コーチングに対する研鑽に努める

〇事業

・団員と共に楽しむこと。

・意見を自由に述べ、会員同士繋がること。

・技術指導と指導者各類に努めること。

・コーチングについて研鑽を積むこと。

### 今後の課題と対応方針

・保護者を中心に、少年団9年制を目指した環境整備（地域クラブ活動）に努める。

・中学生に指導できるよう、協会を含めた体制を構築する。

# 2.実証内容と成果



## 取組内容

**●取組項目名　ク：その他の取組　少年団を含めた「9年制」**

### 取組事項

〇陸上競技の個人練習を行っている児童生徒の活動施設に、陸上競技が専門である部活動地域移行コーディネーターが指導者となり助言を行ったことから、かけっこ教室を継続して開催。その後、保護者が中心となり自主練習として定期的に活動を継続。現在、中札内ATHLETIC ACADEMY準備室として教室を開催中。次年度からはNPO法人とした組織に向け準備を進めている。

### 取組の成果

〇個人練習から専門性を備えた指導者から学ぶことで、技術が向上した。

〇かけっこ教室を開催したことで、村内で存在していた経験者が指導者として活躍できる場面ができた。

〇指導者と児童生徒が関わる場面が確立された。

〇保護者が中心となり活動を開始したことで、組織が確立され、持続可能な体制整備と活性化が図れた。

### 中札内ATHLETIC ACADEMY準備室取組内容

〇自主練

・日　時

毎週水曜日

午後５時30分～７時

・場　所

総合運動公園陸上競技場

屋内多目的運動施設

対象者

小学生～中学生

〇陸上スクール体験会

・対　象

年中児、年長児

〇陸上スクール体験会

・対　象

小学1年生～５年生

〇走り方改善教室

・対　象

小学6年生～中学2年生

### 今後の課題と対応方針

・現在、NPO法人として申請中。

・現在実施している各教室を、次年度も実施していく。

# 2.実証内容と成果①

スポーツ庁

## 総括・成果の評価・今後に向けて

### ●総括

【部活動地域移行コーディネーター】

〇少年団9年制「剣道少年団」が、地域クラブ活動として活動を開始した。活動を開始し、指導者と中学校との情報交換の場の重要性が見出された。

〇中札内村の取組を、近隣町村や十勝管内の研修会等で情報提供した。

〇推進協議会議では、小グループによる意見交換を実施、委員一人ひとりから活発な意見が出され、研修会企画実施へと反映された。

〇村民対象に研修会を開催したことで、地域移行の取組が紹介できた。

〇指導者講習会を開催したことで、指導者の資質向上を目指した。

〇交流の杜まつりを通して、ピータンスポーツクラブ一本化に向けた環境整備の一助を目指した。

〇学校開放事業と、村内社会体育施設を有効活用した。

〇少年団9年制を目指した組織設立に向け、活動が開始できる助言をした。

### ●成果の評価

〇剣道少年団が地域クラブ活動として活動を開始したが、中学校との情報交換の重要性が見出されたことから、新たな組織の活動においても同様に訴えていく必要がある。

〇推進協議会議や研修会で意見交換を開催したことから、活発な意見が出され参画型の取組となった。

〇指導者講習会、指導者資格等補助したことで、指導者への負担軽減と資質向上が図れた。

〇交流の杜まつりにおいて親子を対象者としたことで、全ての村民が気軽に楽しく体を動かすことができる足掛かりとなり、ピータンスポーツクラブとの一本化に向けた環境整備の一助が得られた。

〇少年団9年制を目指した新たな組織が準備を含め、体制整備がなされた。

### ●今後に向けて

〇平日・休日セットとして地域移行を進めていく。

〇推進協議会義や研修会を引き続き開催する。

〇ピータンスポーツクラブ一本化に向け、交流の杜まつりで開催した、親子対象の事業を継続開始する。

〇学校開放事業を継続する。

〇近隣町村と連携を進める。

〇新たな組織と連携すると共に、中学校との意見交換に重要性を伝えていく。

# 2.実証内容と成果②

スポーツ庁

## 参考資料（活動写真）



【交流の杜まつり2025　親子で楽しく　からだづくり】



【ウォーミングアップ　体験レッスン】



【外部指導者活動状況　ソフトテニス部】



【外部指導者活動状況　総合文化部】

# 2.実証内容と成果③

スポーツ庁

## 参考資料（活動写真）






【指導者講習会「バドミントン」】





【指導者講習会「野球」】





【地域連携の中間報告と意見交換】



【地域連携の活動報告】

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

| 令和5年 | | 令和6年 | | 令和7年 | | 令和8年以降 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 協議会設置、検討開始<br>コーディネーター配置 | ▶ | 指導不足解消研修会を通じて地域移行を説明 | ▶ | 外部指導者導入<br>研修会中間報告、地域連携報告 | ▶ | 地域クラブ活動開始<br>学校との情報交換 | ▶ | 部活動指導員制度導入<br>外部指導者継続<br>広域連携虚偽 | ▶ | 少年団9年制整備・充実 |

**目標：環境整備その1　現状把握と課題の抽出、及び協議会の設立**

**●ステークホルダー**

学校、保護者、社会教育委員、スポーツ推進委員、スポーツ・文化団体、総合型スポーツクラブ、教委、総務G

**●経過と実施内容と成果**

令和5年度より協議会設置し、3回会議を開催。児童生徒等アンケート調査実施。生徒より回答により「からだ塾」開催。顧問を中心に聴き取り実施。少年団では、指導者不足を抱える団体については、経験者を中心に指導目的とした協会を設立。また、既に小中合同により活動している団体は次年度に向けクラブ活動として整備に入った。

**目標：環境整備その2　課題解決と部活動の地域連携による試行とその検証**

**●経過と実施内容と成果**

剣道少年団が地域クラブ活動スタート。

少年団9年制と部活動毎、現状と課題を検証。

「からだ塾」から、講師派遣事業に一部内容を充実させ、「ウォーミングアップ体験レッスン」とし実施。

指導者資質向上を目指した、指導者講習会を実施。

バレーボール部、ソフトテニスブに外部指導者導入し、部活動における指導体制の充実と教員の負担軽減に努めた。

ピータンスポーツクラブ一本化に向け事業を充実させた。

新たなクラブチームが活動を開始した。

**目標：休日と平日における部活動の地域展開の実施と持続可能な活動の環境整備**

**～誰もが参加できる　スポーツ・文化芸術活動を通した「まちづくり」を目指して！！～**

**●今後の展開**

平日・休日セットとして地域展開継続

推進協議会議や研修会の継続。

ピータンスポーツクラブ一本化に向け、親子対象とした事業を継続。

学校開放事業の継続。

近隣町村との連携。

少年団9年制、地域クラブ活動とした活動団体に対し、中学校との情報交換の場を唱えていく。

**●休日・平日セット**
**●少年団を含めた「九年制」**
**●近隣町村と合同**
**●中札内ピータンスポーツクラブとの一本化**

# 3.今後の方向性

令和７年度～誰もが参加できる　スポーツ･文化芸術活動を通した「まちづくり」を目指して！！

スポーツ庁

## 地域連携･地域移行の推進に向けたロードマップ

| ２０２４年度（令和６年度） | ２０２５年度（令和７年度） | 目指す姿 |
|---|---|---|
| 改革推進期間 | | ○休日・平日セット<br>○少年団を含めた「９年制」<br>○近隣町村と合同<br>○中札内ピーターンスポーツクラブとの一本化 |
| 環境整備その２　課題解決と推進協議会の強化、及び部活動の地域連携による試行とその検証 | 休日と平日における部活動の地域移行の実施と持続可能な活動の環境整備 | |
| 部活動地域移行推進協議会議（年2回） | | |
| 社会教育委員（年2回）・スポーツ推進委員会議（年３回）進捗状況報告 | | |
| スポーツ指導者講習会（適時） | | |
| 南十勝広域協議（適時） | | |
| 関係団体との連携強化（適時） | | |
| 学校　教員の意見把握 / ウォーミングアップ　/　外部指導者任用・継続<br>体験レッスン講師派遣　　部活動指導員任用 | | |
| 地域クラブ活動　剣道少年団9年制スタート　　中札内ATHLETHIC　ACADEMYスタート<br>バドミントン少年団9年制準備 | | |

スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

## 地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

# 北海道 池田町


自 治 体 名 ： 北海道池田町
担 当 課 名 ： 教育委員会教育課社会教育係
電 話 番 号 ： ０１５-５７２-５２２２

# 1.自治体の基本情報

スポーツ庁

## 基本情報

| | |
|---|---|
| 面積 | 371.8 ㎢ |
| 人口 | 5,895 人 |
| 公立中学校数 | 1 校 |
| 公立中学校生徒数 | 113 人 |
| 部活動数 | 6 部活 |
| 市区町村の協議会・検討会議等の設置状況 | 設置済 |
| 市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況 | 未策定 |

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

①本町の生徒数は、中学校が１校となった平成24(2012)年度の207人から、令和４年度の出生児が中学校に入学する令和17(2035)年度には67人(68%減少)となり、少子化が急速に進行する見通しとなっている。

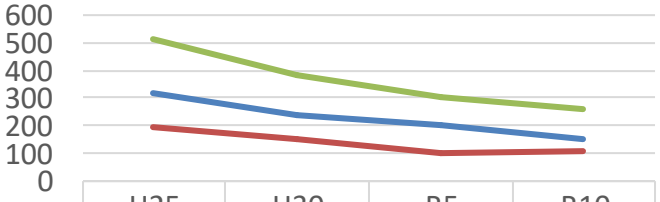
②この状況を踏まえ、人間関係の構築や自己肯定感の涵養などの意義や役割を有する部活動について、学校での部活動の運営・維持が困難となる前に、学校と地域が連携し、地域の実情に応じ子どもたちが継続してスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる持続可能な環境づくりを目指していくことが重要である。

③将来的にはすべての部活動の地域移行を目指すこととするが、国が示す令和５年度から３年間の改革推進期間において、令和７年度に向け地域移行が可能な部活動(以下、「地域クラブ活動」という。)から取組を進める。なお、当面の間、地域クラブ活動とこれ以外の学校部活動が併存することになる。

④地域クラブ活動は、同じ指導者のもと休日及び平日での実施を基本に検討を進めることが適当である。

⑤地域クラブ活動については、指導者確保の観点から少年団活動も含めた活動として検討する。

児童・生徒数の推移




| | H25 | H30 | R5 | R10 |
|---|---|---|---|---|
| 小学生 | 315 | 237 | 205 | 154 |
| 中学生 | 195 | 148 | 101 | 106 |
| 合計 | 510 | 385 | 306 | 260 |

【課題】
現在の池田町の出生数を鑑みると、今後減少傾向はますます大きくなることが予想される。

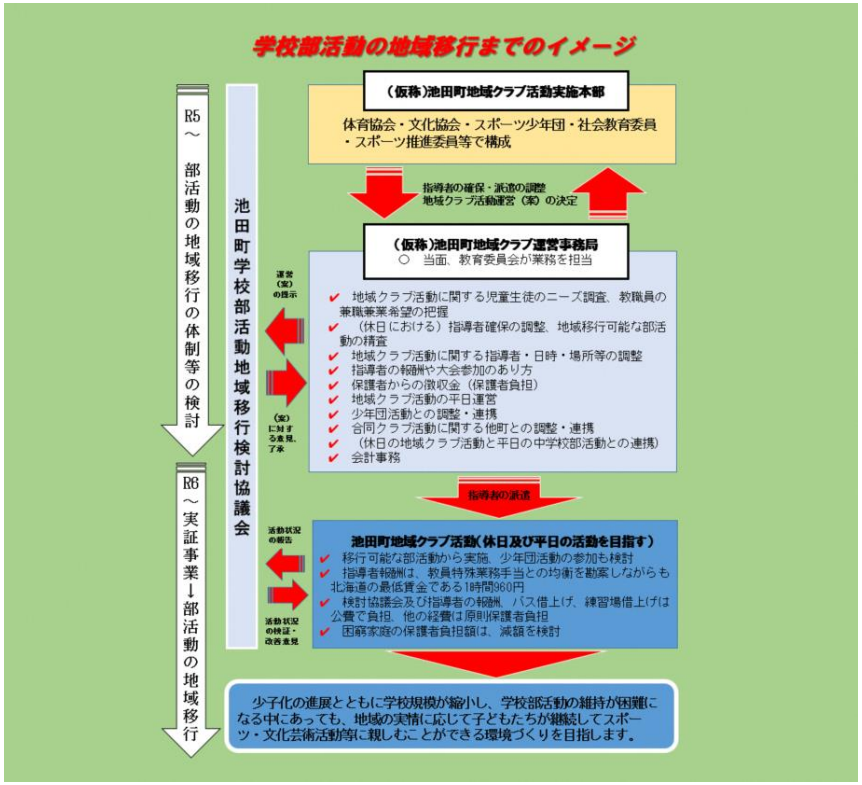
5月1日現在

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）




●行政組織内での役割分担

**◉教育委員会**

教育課・・・学校との調整・連携、部活動の地域移行に関わる環境整備

**◉町長部局**

企画財政課・・・予算措置

## 年間の事業スケジュール

| | |
|---|---|
| 令和６年４月 | IKEDA TRACK CLUB（陸上クラブ）設立 |
| 令和６年４月 | アンケート調査実施 |
| 令和６年５月 | 第６回検討協議会会議 |
| 令和６年６月 | 他町との合同部活動に対する移動支援開始 |
| 令和６年６月～ | 関係団体との意見交換 |
| 令和６年９月 | 第７回検討協議会 |
| 令和６年11月 | 第８回検討協議会 |
| 令和６年12月 | 指導者バンクの設置 |
| 令和７年２月 | 第９回検討協議会 |

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の運営実績

### ①全体に関すること

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中学校数 | 1 校 | 実施した地域クラブ総数 | 1 クラブ |
| ケース別クラブ数 | A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数） | | 0 クラブ |
| | B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等） | | 1 クラブ |
| 全体の指導者数 | 3 人 | 全体の運営スタッフ数 | 7 人（保護者） |

### ②各クラブに関すること

| クラブ名 | 運営団体種別 | 種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける | 実施回数 | 実施時間帯 | 参加者（学年別） | 実施期間 | 活動場所 | 指導者数 | 運営スタッフ数（他クラブと兼務） | 会費 | 大会参加方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IKEDA TRACK CLUB | 地域クラブ | 陸上（新） | 平日 3 回（月水金）<br>休日 1 回(大会練習など) | 平日16：45～18：45 | 小学３年 8名<br>小学４年 9名<br>小学５年 8名<br>小学６年 6名<br>中学１年 2名 | R6.4.10 | ・池田小学校グランド<br>・マックスバリュ池田店 | 3 人 | 7 人 | 年会費 10,000 円 | 中体連：部活動<br>その他：地域クラブ |

# 2.実証内容と成果

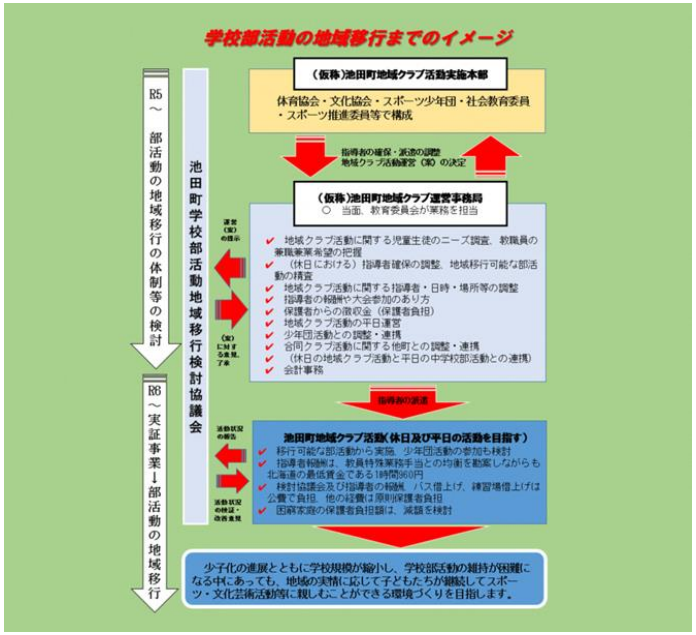
スポーツ庁

## 主な取組例

### ●IKEDA　TRACK　CLUB　活動概要

| | |
|---|---|
| 地域クラブ活動で実施した種目 | 陸上 |
| 運営団体名 | IKEDA　TRACK　CLUB |
| 期間と日数 | 陸上：４月１０日 ～ ３月３１日<br>月１６回程度 |
| 指導者の主な属性 | 小学校教員1名、民間2名 |
| 活動場所 | 夏　池田町立池田小学校グランド<br>池田町総合体育館（雨天時）<br>幕別町陸上競技場<br>冬　池田町マックスバリュ2階 |
| 主な移動手段 | 池田町少年団回送バス<br>池田町スクールバス(幕別競技場のみ)<br>徒歩・自転車 |
| １人あたりの参加会費等（年額） | 陸上：10,000円 |
| １人あたりの保険料 | スポーツ安全保険<br>生徒１人あたり：800円/年<br>指導者１人あたり：1,850円/年 |

### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）




### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携等を行う

●主任指導者　3名

役割：活動における主任指導者として、生徒、児童への指導を行う

●運営補助者

役割：活動において、主任指導者の補助として指導を行う

# 2.実証内容と成果



スポーツ庁

## 取組内容

### ●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

**取組事項**

・令和6年12月に、中学校で部活動の指導を行う「部活動指導員」や部活動を地域に移行して地域で行われる「地域クラブ活動指導者」、担当顧問と一緒に指導をする「部活動サポーター(ボランティア)」を募集して登録する、池田町「指導者バンク」を設置した。

**指導者バンクの登録人数**

７名

**指導者バンクの年齢構成**

| | |
|---|---|
| 20代 | １名 |
| 30代 | ２名 |
| 40代 | ２名 |
| 50代 | ０名 |
| 60代以上 | ２名 |

**登録者属性**

一般町民　３名
役場職員　４名

**希望種目**

・野球
・バドミントン
・吹奏楽

〈募集種目〉
バスケット
陸上
卓球

**取組の成果**

・3競技７名の指導者の応募があった。
・地域の潜在的な人材の発掘や指導者情報の把握に努めた。
・各競技団体との意見交換、情報共有を行った。
・ボランティアである部活動サポーター枠を設け、登録しやすい環境に努めた。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
**オ：内容の充実**
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　オ：内容の充実①**

**取組事項**

・IKEDA TRACK CLUBの設立により、小学校から中学校まで陸上競技を継続して活動できる環境を整備した。
・小中学生、保護者、教職員向けにアンケート調査を実施し、アンケート結果を通して、各対象者のニーズの把握に努めた。
・練習場所の確保をはじめ、児童生徒への緊急連絡体制など、小中学校と調整を図った。

**活動の詳細**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 参加人数 | 中学生２人、小学生31人 | 指導者数 | ３人 |
| 属性 | 陸上競技 | | |
| 具体的な内容 | 令和５年度より検討協議会を設置し、陸上少年団、小中学校、教育委員会、関係団体で設立に向けた検討を行い、陸上少年団を母体としたIKEDA TRACK CLUB（地域クラブ）を令和６年４月に創設し、小学から中学まで継続して活動ができる環境を整備した。<br>練習は平日週3回（月、水、金）　休日は土日どちらか1回（大会や練習等）<br>活動場所は池田小グラウンド：5月～10月（雨天時は池田町総合体育館）<br>マックスバリュ池田店2F：11月～4月<br>練習時間は平日16：45～18：45　休日不定期 | | |
| 子供の声 | ・中学生になっても陸上競技を続けられるようになり嬉しい。<br>・陸上少年団出身の先輩方（中学生・高校生等）が練習を見て指導してくれることもあり楽しい。 | | |
| 関係者の声 | ・中学校になって部活動がない競技は続けることができなかったが、クラブができることで継続して続けることができるので嬉しい。<br>・指導者が教員なので安心。<br>・指導教員の異動とともに、陸上少年団もなくなると思っていたので、複数指導者がクラブ登録してくれ、大変ありがたい。 | | |
| 運営経費 | 年会費　/　10,000円<br>指導者保険料　/　1,850円<br>小中学生保険料　/　800円 | | |

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
**オ：内容の充実**
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　オ：内容の充実②**

### 取組の成果

・児童・生徒を対象としたアンケートを行い、活動したい競技等に関した質問項目の中で、中学生が活動したい種目としてバドミントンと吹奏楽が占める割合が高い結果となった。一方、小学生では中学生になって活動したい種目として陸上、美術、バドミントン、吹奏楽の占める割合高い結果となった。
・教員の定期的な異動のため、陸上少年団が存続に危機にあり、持続的に池田町内で陸上競技を続けられる環境の整備を求める保護者の声が多く聞かれた。
以上のことを踏まえ、中学校に部活動がなかった陸上競技を地域クラブとして設立した。

### 今後の課題と対応方針

・指導者バンク等を通して、指導者の把握や募集、稼動できる日程や時間帯なども引き続き協議していくことが必要になる。
・受益者負担の観点も斟酌しながら、負担いただく費目の設定も必要である。
・教育委員会職員が大会等の支援せざるを得ない現状を改善するため指導者体制の充実を図る。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
**キ：学校施設の活用等**
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

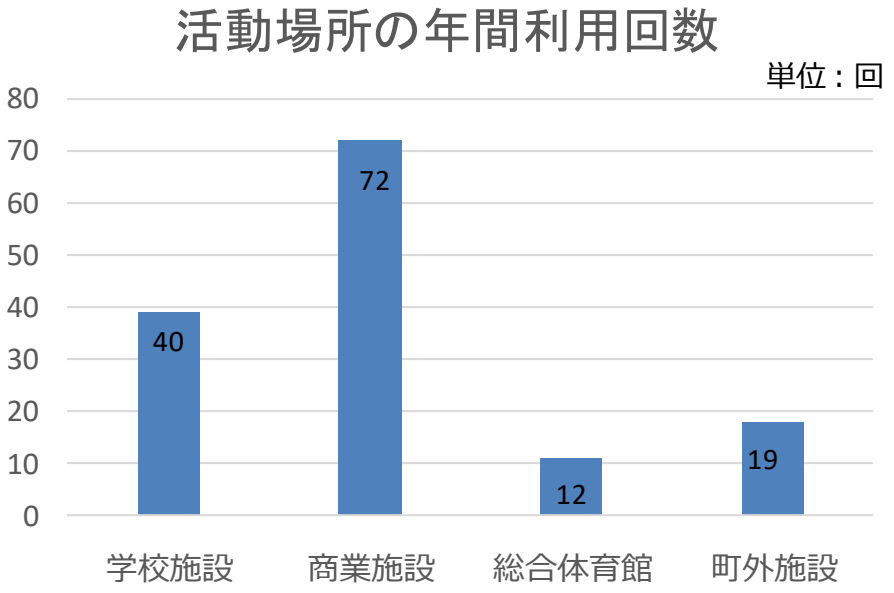
**●取組項目名　キ：学校施設の活用**

### 取組事項

池田中学校はグラウンドが芝生化されており、陸上競技を実施できない環境となっているため、夏季は池田小学校のグラウンドを活用し、冬季は商業施設2Fを借り上げ、生徒・児童が活動しやすい安心安全な環境を確保している。

### 取組の成果

・池田中学校から池田小学校への移動は200m程度しかなく、慣れ親しんだ場所の活用により、徒歩や自転車等の移動手段が簡易化されている。
・夏季（５月～９月）の活動回数は全68回において、約58%は学校施設を利用しての活動となった。
・冬季（10月～４月）の活動回数は全75回において、約96%は商業施設を利用しての活動となった。




### 今後の課題と対応方針

・小学校のグラウンドを活用していることから、今後も小学校や中学校とのの関係団体等と連携し、連絡体制の整備や調整を図る必要がある。

# 2.実証内容と成果①

スポーツ庁

## 総括・成果の評価・今後に向けて

### ●総括

1. 少子化が急速に進行する中、学校部活動が担ってきた人間関係の構築や自己肯定感の涵養などの役割について、学校での部活動の運営・維持が困難となる前に、学校と地域が連携し、地域の実情に応じ子どもたちが継続してスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる持続可能な環境づくりが求められている。

2. 将来的にはすべての部活動の地域移行を目指すこととするが、地域移行後の地域クラブ活動を担う指導者の確保は、池田町に限らず多くの市町村で大きな課題となっている。

3. 指導者については、4月に実施した教職員アンケートにおいて、「平日・休日ともに部活動に関わりたい」とする回答が3人（全体の7.9%）にとどまるほか、7月から11月まで行われた各競技団体との意見交換でも、スポーツ少年団や関係団体から指導者を確保することは厳しい状況となっている。

4. 指導者の確保が難しい状況を踏まえ、将来的な地域移行を見通して、まずは、学校部活動の指導に当たる「部活動指導員」を確保することも重要となっている。

5. 指導者の確保に向けては、様々な方策を検討し把握する必要があり、場合によっては他市町村との広域的な連携も視野に入れる必要がある。

### ●今後に向けて

1. 国の「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」における議論や財政支援等に留意しながらも、学校部活動の地域移行に不可欠な指導者の確保に向けた取組の強化を図ることが重要である。

2. 持続可能な活動とするためには、将来にわたって維持できる地域クラブ活動の運営体制の検討が必要である。

3. アンケート調査では、美術の活動を希望する児童生徒が一定数いることから、「放課後子ども教室」や「放課後サロンエルム」との関連も含め指導者確保や実施体制の検討が必要である。

4. 教職員の兼職兼業による指導者については、令和7年度に人事異動もあることから、改めて、教職員の意向の把握が必要である。

5. 地域クラブ活動における保護者負担額については、受益者負担の観点も斟酌しながら、負担いただく費目の設定が必要である。

6. チームスポーツにおける合同部活動については、当面、必要な移動支援の継続が必要ですが、将来的には広域的な地域移行について関係町との検討を進めることが肝要である。

# 2.実証内容と成果②

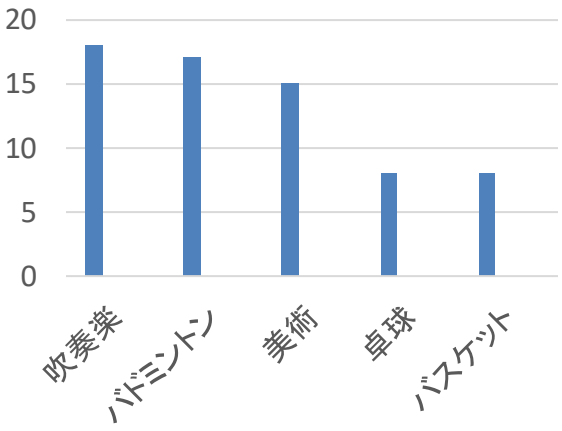
スポーツ庁

## アンケート結果・参加者の声

### ●アンケート結果

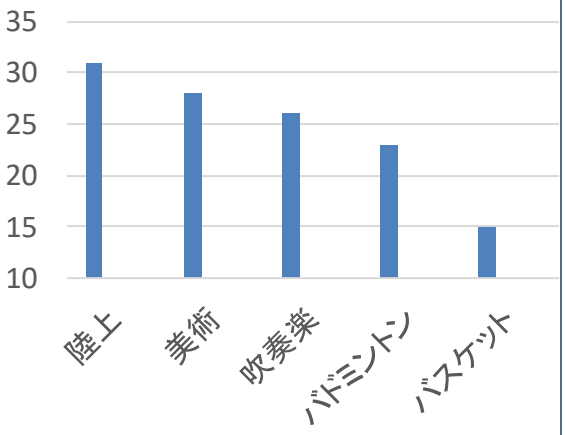
Q.【中学生】部活動が地域での活動（地域クラブ活動）に移行した場合、何の種目に入りたいですか?

単位：人




Q.【小学生】あなたが中学生になって活動したいことは何ですか?

単位：人




※その他
・野球、サッカー、水泳、柔道、スケート　など

### ●参加者の声

**【中学生】**
**・小学生の時、陸上少年団で活動していて、中学校に陸上部が無いため諦めていたが、中学生も活動できる地域クラブができたから、陸上が続けられて嬉しい。**

**・陸上が続けられる環境ができたことによって、大会で自己ベストを更新できて嬉しい。**

**【小学生】**
**・地域クラブは、なるべく身近なかかわりのある人と共にできると良い。そうすると、安心して取り組める。**

**・地域クラブ活動に移行しないほうがいい。理由は中学校の部活動のほうがわかりやすいのでそのままにしてほしい。家は土日ほぼ朝から出かけるので土日は部活をなくしてほしい。**

**・活動時間は1時間半で活動頻度は土日をなくしたらいいと思う。**

# 2.実証内容と成果②

スポーツ庁

## アンケート結果・参加者の声

### ●アンケート結果

Q.【小・中学生の保護者】部活動が地域での活動に移行した場合、お子様を地域クラブ活動に参加させたいですか?

| | |
|---|---|
| 部活動でなくても子供の求める活動であれば参加させたい | 75人（91.5%） |
| 部活動や地域クラブ活動にはそもそも参加させたくない | 0人（0%） |
| 学校の活動でなければ参加させたくない | 3人（3.6%） |
| その他 | 4人（4.9%） |

Q.【教職員】部活動が地域移行に移行した場合の意向について

| | |
|---|---|
| 平日・休日ともに関わりたい | 3人（15.0%） |
| 平日・休日の行けるときに関わりたい | 1人（5.0%） |
| 平日のみ関わりたい | 0人（0%） |
| 休日のみ関わりたい | 0人（0%） |
| 平日・休日ともに地域の人材に任せる | 10人（50.0%） |
| 関わるかどうか決めていない | 6人（30.0%） |
| その他 | 0人（0%） |

### ●参加者の声

**【小・中学生の保護者】**

**・遠方での活動には送迎バスやタクシーの利用、また助成金を出してほしい。**

**・小学校に少年団がある活動は、そのまま続けられるような環境にしてほしい。**

**・そもそも部活動が少ないので選択肢が増えて良いと思います。文化系も増えてくれたら嬉しい。**

**【教職員】**

**・地域クラブ活動内のトラブル等が、中学校に持ち込まれる不安がある。指導者不足や適任者等を考えると、気持ちがある教員に賃金を支払いながら、部活動を維持する方がいいと思う。**

**・部活動は教育課程外ですが、子ども達が大きく成長し様々な経験ができる大切なものだと感じています。確かに負担もありますが、こちらも得るものがあると感じています。地域移行として、地域の方々にお手伝いをいただいたり一緒に活動できるのは良いことだと思いますが、完全に移行するのは難しいのではないかと思っています。**

**・地域で支え、育てていくことは大切だと思う。中学校教員の業務負担軽減にも繋がるので地域移行に賛成。**

# 2.実証内容と成果③

スポーツ庁

## アンケート結果・広報資料

### アンケート調査の概要・考察

【児童・生徒】

**《活動したい競技等》**

○ 中学生では、地域移行した場合、活動したい種目としてバドミントン、吹奏楽の占める割合が高くなっています。

○ 一方、小学生では中学生になってから活動したいこととして、陸上、バドミントン、吹奏楽の占める割合が高くなっており、また、現在は中学校で廃部となった美術の割合が中学生で１４．５%、小学生で２９．５%となっています。

○ 卓球のほか、その他の活動を希望する割合も２０%程度となっています。

**《活動目的》**

○ 中学生及び小学生ともに、「仲間と楽しく活動する」、「技術を身に付ける」がともに半数以上を占める割合となっていますが、「全国大会を目指す」も４０%程度となっています。

**《指導者》**

○ 中学生及び小学生ともに、「専門的な技術・知識を持った指導者」が最も高い割合を占め、次いで「学校の先生」となっており、小学生では「活動経験のある地域の大人」も５０%程度となっています。

**《活動時間》**

○ 現在の学校部活動の方針に基づく活動時間、活動日数を希望する割合が高くなっていますが、小学生では、「現状より活動時間が短い方がよい」とする回答も４０%を超えています。

【保護者】

**《地域クラブ活動への参加》**

○ 「部活動でなくても子どもの求める活動であれば参加させたい」が９０%を超える割合となっています。

○ その他回答の中で、活動に伴う送迎が課題となっていることが推察できます。

**《指導者》**

○ 「専門的な技術・知識を持った指導者」及び「活動経験のある地域の大人」が高い割合を示していますが、「学校の先生」も５０%近くとなっています。

**《納入額》**

○ 「1,000円から4,000円」とする回答が多く、現状の学校部活動及び少年団活動での納入額への回答は低い割合となっています。

○ その他回答として、家計への負担に関する意見があります。

**《地域クラブ活動に望むこと》**

○ 総じて、現在の学校部活動の意義である「体力・技術の向上」、「人間関係の構築」などを求める意見が多くなっています。

【教職員】

**《地域移行した場合の関わり》**

○ 「平日及び休日ともに地域の人材に任せる」が５０%であり、「平日・休日ともに関わりたい」は１５%にとどまっています。

○ その他回答でも、総じて積極的な関りは難しいとの意向が多数となっています。

【アンケート結果からの考察】

**《活動したい競技等》**

○ 中学生及び小学生ともに、現在の加入生徒が多い学校部活動や少年団活動の継続を希望する傾向となっています。

○ 美術について、小学生で約５０%、中学生でも約１５%の希望があり、地域クラブ活動としての実施の可能性の検討が必要です。

○ 列挙した活動以外を希望する児童生徒は２０%程度となっていますが、地域での活動に当たっては指導者の確保が大きな課題であり、すべての希望を満たすことは難しいと考えます。

**《活動目的》**

○ 中学生及び小学生、保護者からは、地域クラブ活動の目的として「体力・技術の向上」や「人間関係の構築」などの回答が多くなっていますが、「全国大会を目指す」との回答も４０%程度を占めています。

○ 指導者の確保を含め、改めて、学校部活動の地域移行による地域クラブ活動の目的等を明確にする必要があります。

**《指導者》**

○ 中学生及び小学生、保護者ともに５０%程度が「学校の先生」による指導を希望しています。

○ 教職員の意向を踏まえ、先生による指導が難しい現状を踏まえ、地域での指導者の確保が大きな課題です。

**《活動時間》**

○ 中学生及び小学生ともに、現在の学校部活動の活動時間・活動日数を希望している結果となっています。

○ 学校部活動が地域移行になった後も、現在の部活動の活動時間等を維持することが適当と考えます。

**《活動に係る納入額》**

○ 保護者のアンケート結果から、より低廉な納入額を希望している結果となっています。

○ 現在の学校部活動や少年団活動の納入額を踏まえた検討、さらに公私負担の在り方を明確にする必要があります。

**《教職員の関わり》**

○ 教職員アンケートから、学校部活動が地域移行になった後も積極的に指導に関わることは極めて難しい状況にある結果となっています。

○ 指導に関わることが可能な教職員の把握方法等の検討が必要です。

# 2.実証内容と成果④

スポーツ庁

## 参考資料（活動写真）



【設立総会】



【トラック練習1】



【トラック練習2】



【大会】

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年度

検討協議会設置
検討協議会会議
(全5回開催)

▶

財源の確保
部員の募集

▶

受け皿団体や指導者の選定、拠点校の選定
学校現場との調整

▶

生徒、保護者への説明

▶

令和6年度

地域クラブ活動の始動

▶

令和7年

地域クラブ活動の拡大を検討

**【ステークホルダー】**

小学校、中学校、少年団、町長部局、教育委員会、検討協議会

**【経過】**

令和５年度より検討協議会を設置し、陸上少年団や中学校、教育委員会、関係団体で設立に向けた検討を行い、陸上少年団を母体としたIKEDA TRACK CLUB（地域クラブ）を令和６年４月に創設した。

**【実施に当たって生じた課題】**

①指導体制で主となっているのは教員であることから、今後の人事異動等を踏まえると、指導体制に不確定な要素がある。

②令和６年度は中体連大会が３回あり、教育委員会職員が大会役員等の役割を担ったほか、大会登録事務等についても支援せざるを得ない実態にある。

③今年１年間行ってきて、小学３年生の指導に時間がかかることや特別な配慮が必要な児童に対するアプローチが課題となっており、小学校の繋がりも重要である。令和７年度は、指導者体制等を勘案し、新規会員の募集は見合わせることを検討している。

④練習が中止の時や、練習場所の変更等の連絡体制について、引き続き学校の協力をいただく必要がある。

⑤小学校のイベント（運動会・遠足等）に合わせた練習メニューを考えていく必要がある。

**【実施内容】**

①中学生２名、小学生31名の計33名で陸上競技の地域クラブ活動が発足し、令和６年度は中体連を含め14回の大会に参加。

②指導体制は、教員１名、民間２名の計３名体制となっており、地域クラブの運営に当たっては保護者のほか、教育委員会職員が支援を行っている。

③練習時間及び練習場所は、夏季が週３日池田小学校グラウンドを、冬季は週３日マックスバリュ池田店を使用しており、他町で練習する場合や冬期間の練習にはバスの借り上げ等により移動を支援している。

④指導者の報酬は北海道の最低賃金を踏まえ、１時間当たり960円としていたが、10月からの改定に合わせて現在は1,010円となっている。

**【今後の展開】**

令和７年度には、他競技の地域クラブ化を目指して、各競技団体と設立に向けた協議を行う。また、池田町「指導者バンク」等を活用し指導者の確保に努める。

# 3.今後の方向性

スポーツ庁

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

